

令和元年度広報推進協議会開催

日 時 令和2年3月26日（木）

会議形式 メールによる開催

議 事

- （１）各構成団体の広報活動の情報提供
- （２）調整ワーキンググループの活動報告・来年度の活動予定
- （３）その他

【配付資料】

資料1 各構成団体の令和元年度広報活動の取組報告

資料2 調整ワーキンググループの活動状況報告・来年度の活動予定

広報推進協議会構成員

海老名頼利	(一社)全国測量設計業協会連合会	事務局長
藤澤 浩昭	〃	企画部長
宮山 博文	(一財)測量専門教育センター	事務局長
土田 俊行	〃	(中央工学校 教務部長)
田中 尚行	(一社)地図調製技術協会	専務理事
岩崎 昇一	〃	理事・事務局長
岩田 邦雄	(公社)日本測量協会	総務部長
林 保	〃	測量技術センター 参事役・管理部長
斉藤 和也	(公財)日本測量調査技術協会	専務理事
津沢 正晴	〃	理事・事務局長
百成 了一	(一財)日本地図センター	理事・流通事業部長
山口 桂司	〃	総務部長

明野 和彦	国土交通省国土地理院	参事官
奥山 祥司	〃	企画部 地理空間情報活用推進分析官

アドバイザー
鹿田 正昭 金沢工業大学 副学長

オブザーバー
中根 達人 国土交通省 土地・建設産業局 建設市場整備課
専門工事業・建設関連業振興室 企画専門官

※ 敬称略

2020 年 3 月 13 日

令和元年度広報活動の取り組み報告

(一社)全国測量設計業協会連合会

1. 体験学習等(毎年測量の日に併せて実施)

全測連として実施しておりませんが、会員の各協会が実施。

歩測体験:1 測協(宮城県測協 196 名)

測量競技大会:1 測協(山形県測協 73 名)

測量体験学習:7 測協(富山県測協 42 名、石川県測協 91 名、静岡県測協 153 名、京都府測協 50 名、徳島県測協 12 名、愛媛県測協、大分県測協 37 名)

基準点清掃:1 測協(山梨県測協)

近代測量パネル展:2 測協(石川県測協 1500 名、佐賀県測協 1700 名)

2. 講演会

全測連として G 空間 EXPO2019 にて「i-Construction をはじめとした 3 次元データの取り組みについて」を主題とし、国土交通省 大臣官房 技術調査課 岡村課長による講演会を実施。

又、会員の各協会の実施状況は下記の通りです。

福岡県測協:近代測量 150 年について

3. 就職活動

建設関連業イメージアップ促進協議会(全測連、建コン、全地連)で学校説明会開催。今年度は、八戸高専産業システム工学科 2,3,4 年生 119 名、広島工業大学 工学部 環境土木工学科 3 年生 59 名、福井工業大学 工学部 建築工学科 3 年生 65 名、大阪工業大学 工学部 都市デザイン工学科 3 年生 27 名、長野高専 環境都市工学科 4 年生 31 名と 5 校 301 名に建設関連業への就職に向けた説明を実施。

長野県測協が年末に帰省学生向けに説明会を開催。

令和 2 年 3 月 1 3 日

(一財) 測量専門教育センター

令和元年度広報活動の取組報告

- 測量専門教育センターの広報活動
 - ・「測量の日」関連行事において、ポスター、関連グッズの配布を行った。また、関連団体と連携・協力しながら関連行事を実施した。
 - ・近代測量 1 5 0 年記念事業にかかるイベントへの参加要請、諸事業の P R を各測量専門養成施設に実施した。

- 測量専門養成施設の広報活動の紹介
 - ・高校生を対象とした体験入学や学校説明会の実施。
 - ・保護者を対象とした学校説明会や業界の説明会を実施。
 - ・社会人を対象とした学校説明会（夜間・休日）を実施。
 - ・高校生を対象とした出前講座や測量士補模擬試験を実施。
 - ・教員による高等学校訪問を実施し、担任の先生や進路指導担当者に就職状況や卒業後の進路などを説明。
 - ・実際の仕事を体験（見て、触れて、感じる）させることをテーマとした広報活動を実施。

令和元年度広報活動の取組報告

令和 2 年 3 月 13 日
一般社団法人地図調製技術協会

1) 「くらしと測量・地図展」への参加

- 期 間 6 月 5 日（水）～7 日（金）
会 場 新宿駅西口広場イベントコーナー
内 容 ① テーマ「地図と測量で振り返る平成」
② 会員社より出展し地図の楽しさ、面白さを伝える展示を行った。
・「平成年表」のパネル展示
・プロジェクションマッピング展示
・実体視体験
・参加者 200 人を対象としたアンケート調査を実施した。

2) 出前地図カフェ

- 期 間 6 月 5 日（水）～7 日（金）
会 場 新宿駅西口広場イベントコーナー
内 容 「くらしと測量・地図展」開催中に 10 講座を開催した。

3) 第 29 回国際地図学会（ICC 2019 東京）

- 期 間 7 月 15 日（月）～20 日（土）
場 所 日本科学未来館と周辺 4 箇所
内 容 会員社 5 社で共同出展ブースにて展示を行った
・地図、デジタルコンテンツ
・プロジェクションマッピング
・地図グッズ

4) 真夏のシンポジウム開催

- 日 時 8 月 7 日（水）13：00～17：00
場 所 測量年金会館
テーマ 「地図トレンドの過去・現在・未来」
内 容 7 講座とキーワードディスカッション

5) 地図カフェ「第 2 回地理・地図大クイズ大会」

- 日 時 11 月 6 日（水）19：00～20：45
場 所 株式会社ゼンリン内 特設会場
内 容 地図会社がつくる地図クイズ～全日本！都道府県から出題～
ゲスト 衿沢世衣子（ゲスト出題者）

6) 技術シンポジウム開催

- 日 時 11 月 22 日（金）10:00～17:00
場 所 測量年金会館
テーマ 「これからの地図づくりを考える」
内 容 ～地図づくりは AI に凌駕されるのか～ 6 講座と総合討論

7) 機関誌「地図ジャーナル」の刊行及び寄贈

令和元年 8 月 30 日 NO185 号（孟秋号）特集「これからの地図づくりを考える」
～地図づくりは AI に凌駕されるのか～

令和 2 年 1 月 1 日 NO186 号（新春号）特集「地図と仮想空間（3D）」

一般希望者にも頒布販売と地理学科関連の講座のある大学などに寄贈して広報活動を行った。

8) 児童生徒地図作品展への後援

広島県、札幌市、旭川市、多摩市、鳥取県への児童生徒地図作品展への後援及び表彰状の交付を行った。

くらしと測量・地図展



測量の日東京地区記念行事の一環として
毎年新宿西口イベント広場で開催されている
「くらしと測量・地図展」も、既に27回目を迎えることとなった。
今回のテーマは「地図と測量で振り返る平成～災害と技術革新の時代～」。
平成はまさに災害と技術革新の時代だったことを受け、
その視点からの平成の「総まとめ」を試みた。

地調協 今回の展示

毎年、数多くの会員企業が展示・配布物提供を行っているが、ここ数年は、会場のもっとも外側の自由通路側に「協会としての共通展示」を行っている。

今回は、地図ジャーナル No.184 で特集した「平成の年表」を大判にして掲載。平成の時代を経て、地図調製を取り巻く環境や技術がどの様に劇的変化を遂げてきたのかを示した。会員企業の個別展示については、例年を上回る企業の参加を得た。



今年の協会展示では、お馴染みニシムラ精密地形模型のプロジェクションマッピング、国土地図の実体視体験などに加え、ゼンリン・北海道地図など上映型の展示も目立った。
一般的なパネル展示も増え、トータルとしては、昨年をはるかに上回る展示物が集まった。

今年も好評！出前地図カフェ

今回も、開催期間中を通じてトークショー「出前地図カフェ」を開催した。

昨年までと大きく異なる点としては、昨年までであればどうしても当協会が中心としてメンバーを募り、準備を進めることになっていたが、今回からは実行委員会に名を連ねる他のほとんどの団体が出演者を推薦して頂き、共同での準備ができたことだ。今後も、この協調体制は大切にしていかなければならない。

今回の演目は、次の通り（敬称、略。番号は写真に対応）

どの回も、100名を超える聴衆が集まり、立ち見が続出するほどの人気を博した。

特に、実際の折り方を学習する形をとったミウラ折り三浦先生の話、「洪水から身を守るために実際にはどのくらいの時間が残されているのか」を実際に自分のいる場所で判定する方法を実習する形をとった河川情報センターの話は、聴衆が実際に参加できる形をとっており、トークショーにこの様な要素を盛り込むというのは、今後大いに参考にされるべきであろう。



① ミウラ折りで地形図を折る話

東京大学名誉教授 三浦公亮

② 雑貨に描かれた地図の文化史

仙川地図研究所 小森 葵 & 平成文化研究家 山下メロ

③ 地形図で見る災害の前と後

今尾恵介

④ 日本最古の三角点の発掘と測量

東京都測量設計業協会オリパラ部会 高岸 且

⑤ 地理院地図って？

～国土地理院のネット地図を使ってみよう～

国土地理院情報普及課長 佐藤壮紀

⑥ 「平成 30 年」地図センターのトピックスから 地形図、数値地図、地図中心

日本地図センター相談役 田代 博

⑦ マイ・タイムラインを作ろう

～洪水から自分の命を守るために～

河川情報センター 坂部真一

⑧ スリバチ地形が育む東京の魅力

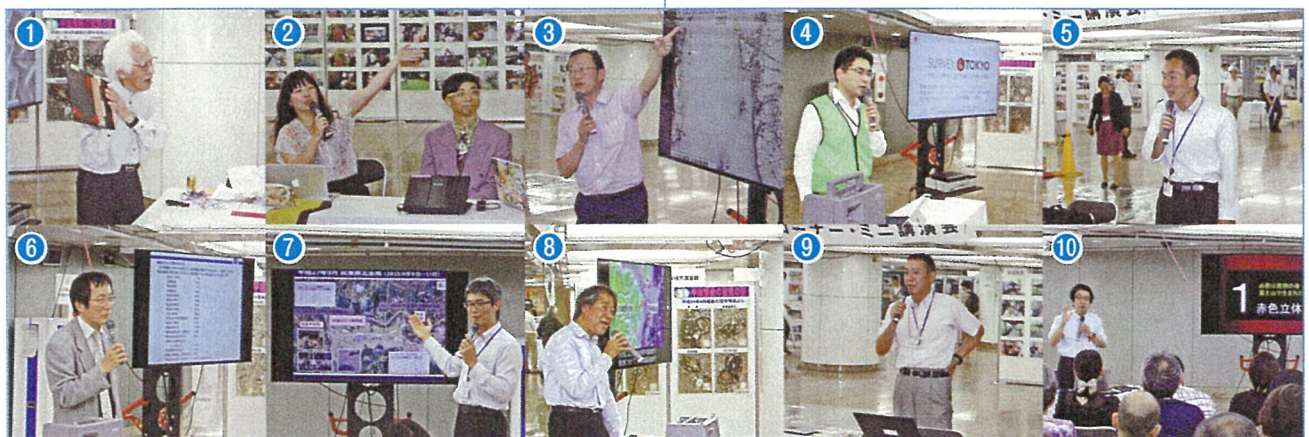
東京スリバチ学会 皆川典久

⑨ 見えないものが見えてくる～重力の不思議～

国土地理院関東地方測量部 平岡喜文

⑩ 赤色立体図で見る山手の地形と土地利用

アジア航測先端技術研究所 千葉達朗



今後に向けて

27年間も続く展示会というのは、他の分野を含めても、かなり珍しい。来場者数も安定している。

ここ最近、気づいたことがある。それは、毎年来る常連の人や、素人ではないひと（地図・地理に詳しい人）が確実に増えているという点だ。トークショーも好評を博している今、これからどの様にして来場者の満足を得ていけばいいのか、何を訴えていけばよいのか・・・、特に来年はオリンピック・パラリンピックの年ということもあり、今から考えていかなければならないだろう。

今回の出展社、配布物・展示物提供会社・団体

アジア航測株式会社、インクリメントP株式会社、NTT空間情報株式会社、お茶の水女子大学、株式会社河出書房新社、株式会社コギト、国土地図株式会社、株式会社JAFメディアワークス、株式会社昭文社、昇寿チャート株式会社、株式会社ゼンリン、株式会社地理情報開発、東京カートグラフィック株式会社、内外地図株式会社、株式会社永岡書店、株式会社ニシムラ精密地形模型、日本地図学会、株式会社武揚堂、株式会社平凡社、北海道地図株式会社、株式会社マブコン、ヤフー株式会社



29th

International Cartographic Conference

15th-20th July 2019

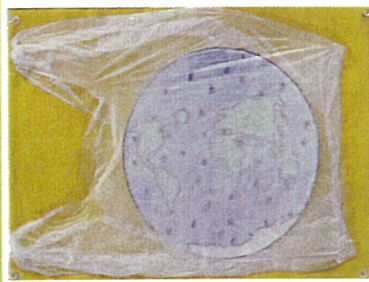
National Museum of Emerging Science and Innovation (Mirai-kan) & Tokyo International Exchange Center*110

7月15日～20日、東京お台場の科学未来館において、第29回国際地図学会議が39年ぶりに東京で開催され、世界各国の地図がお台場に集結した。会場は日本科学未来館とその周辺のお台場各地の4か所で催され、会場を行き来する各国の人々で賑わった。

バーバラ・ペチュニク子供地図展

開会式典を終えられた秋篠宮ご夫妻と長男の悠仁さまもご鑑賞されたこの展示会は「地図が大好き(We love maps)」をテーマに各国から数点ずつの作品が選ばれ、子供たちの様々な目線での地図表現が展示された。

環境問題や世界情勢を世界地図とともに表現したり、ファンタジーな世界観で地図を扱うなど様々で、カラフルな作品も多く大人では考えつかないような驚きが多数あった。



オーストリアのTanjaさん(11)の作品。地球がビニール袋の中に入ってしまったという。環境問題を痛烈に表現している。

地調協ブースも盛況

当協会のブースは会員各社の様々な地図やデジタルコンテンツ、プロジェクションマッピング装置などを展示しました。中でもニシムラ精密地形模型の展示物には連日各国の方が熱心に質問している姿があった。

また、同展示エリアではほかにも日本地図学会会長の森田氏が代表を務めるNPO法人図の表現活用研究所が販売する「江戸・東京クッキー」(江戸と東京の水辺・道路の変化をクッキーと透明シートでわかるように表現したもの)を多くの方が関心をもって購入していた。

会員各社のブース

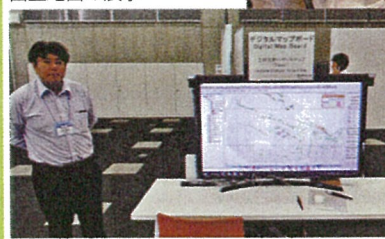
ゼンリンでは mati mati シリーズをはじめ伝統芸能を取り入れた和雑貨などを展示販売。

国土地図は災害時に使用できるタッチパネル式「デジタルマップボード」を展示。

ゼンリンの展示販売コーナー



国土地図の展示



国際地図展

国際地図展では会員各社の出展があり、東京カートグラフィックの地図データを使った商品が「OTHER PRODUCT」部門で1位を受賞した。

まさに地図のお祭りといった盛況ぶりで学術的なことだけでなく多くの刺激を得ることができたイベントだったと言える。

(村松和善)



当協会のブース



ニシムラ精密地形模型、
大道寺社長の説明を熱心に聞く女性



江戸・東京クッキーを購入し
すぐにほうばった。

真夏のシンポジウム

地図トレンドの過去・現在・未来

2019/8/7 (水) 13:00～
測量年金会館 大会議室

本シンポジウムは、空間表現をベースとした地図空間情報のインターフェースを担う業界が新しい時代にどう向き合っていくべきなのか、会員各社の技術への取り組みやビジネスモデルの特性等を深掘りしつつ自らの強みを知り、今後へ向けた地図調製の進むべき道や社会的アイデンティティを議論する機会と位置付けています。

CPDポイント：4ポイント

発行手数料：会 員 ￥2,000
(希望者のみ) 一 般 ￥4,000

参 加 費：会 員 ￥1,000
一 般 ￥2,000
学 生 ￥1,000
懇 親 会：会 費 ￥3,000

- 12:30 受付開始
- 13:00 開会挨拶 五本木秀昭 (理事)
- 13:05 **基調講演** 川合康央 (文教大学 情報学部情報システム学科教授)
◆ ゲームエンジンとオープンデータで低コストのシミュレーションを実現する
- 13:45 真野栄一 (株式会社楽しいテレビジ 代表取締役)
◆ 見えない地図の力でビジネスを分析する
- 14:00 原田礼子 (NTT空間情報株式会社 営業部)
◆ みちびきを利用した実証実験について
- 14:15 鈴木一郎 (東京カートグラフィック株式会社 事業推進本部企画営業課)
◆ 地図の可能性へ挑戦する当社の取り組み～地図調製のネクストステージへ～
- 14:30 遠藤宏之 (GIS NEXT副編集長)
◆ GIS NEXT誌17年間の記事に見る地理空間情報トレンドの変遷
- 14:45 向山潔 (株式会社中央ジオマテックス 企画開発部長)
◆ のりものと地図
- 15:00 大貫伸 (内外地図株式会社 地図プロダクトビジネスユニット長)
◆ 江戸時代の船乗りの地図活用
(休憩/キーワード回収)
- 15:30 総合討論
- 16:55 閉会挨拶 小島武也 (理事)
※この後、CPD交付を行いますので、お申込の方はお受け取りください
- 17:30 懇親会 (希望者参加 3,000円)



地図会社がつくる地図クイズ
—全日本！ 47 都道府県から出題—

正解者に豪華賞品 & ゲスト出題者・衿沢世衣子さん!!!

11月6日(水)
19:00 ~ 20:45

(受付開始 / 18:30)

東京都千代田区神田淡路町 2-101
(株)ゼンリン内 特設会場
お茶の水ワテラストワー 12 階
(JR 御茶ノ水駅 徒歩 5 分)

ワンドリンク・お菓子付き
2,000 円

ゲスト出題者 ★ 衿沢世衣子さん

漫画家「ちづかマップ」「うちのクラスの女子がヤバい」
「制服ぬすまれた」など

★ お申込・お問合せ

人数把握のため、事前に下記宛にご連絡願います。
当日の飛込参加 OK! 満席の場合、立ち見となります。

(一社) 地図調製技術協会 事務局
TEL: 03-3815-9110 FAX: 03-3815-9101
jimukyoku@chichokyo.jp

主催 ★ (一社) 地図調製技術協会
地図カフェ実行委員会

協力 ★ (株) ゼンリン



技術シンポジウム

これからの地図づくりを考える ～地図づくりはAIに凌駕されるのか～

2019/11/22 (金) 10:00～17:00

受付開始9:30／懇親会あり

測量年金会館 大会議室

シンポジウム形式／様々な分野のパネリストの講演と意見交換会
各社による関連地図・アプリ等の展示あり

測位精度の向上は、地図の要件にも変化をもたらしています。
自動運転や各種産業におけるロボットの導入といったイノベーションの基盤となっているのは位置情報であり、地図はそのプラットフォームとしての役割を担うようになりました。
こうした変化は、地図に高精度化はもちろん、リアルタイムに近い更新サイクルを求めることになります。
そしてそれを可能にするのが、AIによる地図の自動生成です。
本シンポジウムでは、新しい時代の地図要件に応えるための地図づくりのあり方について、さまざまな角度から考えてみます。

CPDポイント：6ポイント

発行手数料：会	員	¥3,000
(希望者のみ)	一般	¥5,000

参加費：会	員	¥1,000
	一般	¥2,000
	学	生 ¥1,000

懇親会：会	費	¥3,000
-------	---	--------

9:30 受付開始

9:55 開会挨拶 五本木秀昭(理事)

10:00 ◆基調講演 地図づくりはイノベーションで安堵されるか
藤村英範(国土交通省国土地理院企画部 地理空間情報政策調整官)

10:40 ◆画像認識技術を用いた地図更新手法の検討
平松 薫(NTT空間情報株式会社 プロダクト事業部制作企画グループ長)

11:20 ◆Assisted Intelligenceを用いた自由な地図データ作成の試み
飯田 哲(OpenStreetMap Foundation Japan 副理事)

12:00 ◆昼食休憩

13:00 ◆地図づくりの未来～AIの活用に地図の作成更新の自動化やその課題～
米澤秀登(イングリメントP株式会社 第二技術開発本部長)

13:40 ◆Open Location PlatformでOne Map Allianceの実現を～地図は協調と自動生成の時代に～
山下順司(HERE Japan株式会社 APACプロダクト シニアプロダクトポートフォリオマネージャー)

14:20 ◆Webクローリングによるチェーン店舗POI自動収集システム
小川 登久(株式会社デジタルアドバンテージ 代表取締役)

15:00(休憩)

15:15 総合討論(全登壇者・会場を交えての意見交換会)

16:55 閉会挨拶 田中尚行(専務理事)

※閉会挨拶の後、受付にてCPD受講修了書を発行致します。

17:30 懇親会(希望者参加 3,000円)

 一般 地図調製技術協会
社団法人

CPDポイントを希望されるかどうかと、懇親会の出席を明記して
11/20(水)までに 下記宛FAX又はMailでお申し込み下さい。

Fax: 03-3815-9101 Mail: jimukyoku@chichokyo.jp

広告欄目次

- 表2 株式会社昭文社
28 株式会社 Will Smart
42 東京カートグラフィック株式会社
43 株式会社コギト
44 株式会社武揚堂
44 内外地図株式会社
45 株式会社紙大倉
45 株式会社地理情報開発
46 国土地図株式会社
47 株式会社中央ジオマックス
48 富士フイルム
グローバルグラフィックシステムズ株式会社
表3 一般財団法人日本地図センター
表4 株式会社ゼンリン



表紙

夜な夜なモヤモヤと地図について
考えているガラパゴスウミイグアナ
です。

- 02 会長就任にあたって / 一般社団法人 地図調製技術協会 会長 稲垣秀夫
03 通常総会で理事改選

04 特集

これからの地図作りを考える！ 地図作りはAIに凌駕されるのか？

- 06 Open Location Platformで One Map Allianceの実現を
～地図は協調と自動生成の時代に～ / HERE Japanに聞く
10 コンピューティング技術を駆使して
リアルタイム更新の実現へ / TomTom Japanに聞く
14 画像認識 機械学習を利用した地図メンテナンス
に対するインクリメントPの取り組み
/ インクリメントP株式会社 米澤秀登 事業開発本部長に聞く
18 基盤地図情報の自動作成に挑む
/ 国土地理院 地理地殻活動研究センター 地理情報解析研究室 大野裕幸 室長に聞く
22 地図の未来はどこにあるのか / 特集班

業界消息

- 24 2019年1月～7月、業界の様々な動き
30 第1回 地図屋のまち歩き～大山街道とその周辺・今昔さんぽ～ / 小川淳司
31 ICC TOKYO 2019 / 村松和善
32 くらしと測量・地図展
34 先人が伝える災害の教訓「自然災害伝承碑」を地図で発信 / 国土地理院
35 技術シンポジウムのお知らせ

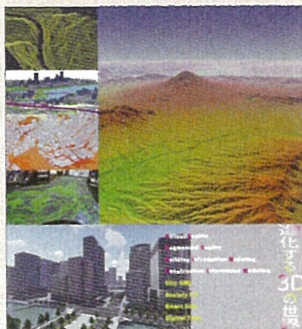
連載

- 36 帰ってきた地図侍 ー第1回ー / 木村雄一
37 書評「基礎からわかる地図の大百科」(田代 博 ほか 著) / 木村雄一
38 ちずらぼの問わ図語り ー第16回ー / ちずらぼ
39 Fresh 地図 Girl ー第13回ー / 東海図版株式会社 小川真由美
40 会員名簿
41 G空間いろはかるた
奥付・編集後記

今号は、本年いくつも開催された地図関連イベント等に対応するため、
発行日が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

広告欄目次

- 表2 株式会社昭文社
42 東京カートグラフィック株式会社
43 内外地図株式会社
44 株式会社武揚堂
44 株式会社徳田屋
45 株式会社紙大倉
45 株式会社地理情報開発
46 国土地図株式会社
47 株式会社中央ジオマチックス
48 富士フィルム
グローバルグラフィックシステムズ株式会社
表3 一般財団法人日本地図センター
表4 株式会社ゼンリン



表紙
各画像は特集記事より抜粋

- 02 新年のご挨拶 / 一般社団法人 地図調製技術協会 会長 稲垣秀夫
03 新年のご挨拶 / 国土交通省 国土地理院 院長 黒川純一良

04 特集 地図と仮想空間(3D)

- 06 地理院地図の3次元地図表現 / 国土地理院 地理空間情報部 情報普及課 佐藤壮紀
10 高精度電子地図と航空写真の活用による3D空間情報の取組について
～地理空間情報を通じたデジタルトランスフォーメーションの推進に向けて～
/ NTT空間情報株式会社
13 道路標高データ ～道路ネットワークに特化した標高値をデータ化～
/ インクリメントP株式会社
14 ゼンリン3D地図データの整備方法と活用事例の紹介
～特殊調査車両「タイガーアイ」を用いて現実の街並みを緻密に3Dモデル化～
/ 株式会社ゼンリン IoT事業本部 IoTアライアンス営業部 営業二課 中山英昭
18 衛星で実世界をデジタル化する
全世界デジタル3D地図「AW3D®」サービスのご紹介
～地上数百kmから撮影した衛星からの情報のみで作成した3D地図～
/ 株式会社NTTデータ 社会基盤ソリューション事業本部
ソーシャルイノベーション事業部 濱田俊一
22 未来の博物館をつくる ～最新の3D地図技術と、その複合メディア化～
/ 地球科学可視化技術研究所CEO/恐竜学研究所 客員教授 芝原暁彦
/ ニシムラ精密地形模型代表/地球科学可視化技術研究所CTO 大道寺 寛
26 進化する3Dの世界 / 特集班

業界消息

- 28 2019年8月～12月、業界の様々な動き
31 地図カフェ報告 / 研究・教育部会
32 技術シンポジウム報告 / 研究・教育部会
33 天皇陛下の御即位を記念して特別仕様の1万分1地形図「東京中心部」を刊行 / 国土地理院
34 名刺広告

連載

- 37 帰ってきた地図侍 一第2回一 / 木村雄一
38 書評「神奈川のトリセツ」 / 遠藤宏之
39 ちずらぼの問答図語り 一第17回一 / ちずらぼ
40 会員名簿
41 魁!! 地理・地図クイズ
奥付・編集後記

全国児童生徒作品展連絡協議会総会
活 動 報 告

令和元年2月7日
一般社団法人 地図調製技術協会

一般社団法人地図調製技術協会は、令和元年度事業として下記の児童生徒作品展において後援および表彰状の公布を行った。

記

表彰式年月日	主催社名	行事名	出席者
令和元年 9 月 22 日	広島県地理作品展運営委員会	第 58 回 地図ならびに地理作品展	
令和元年 11 月 4 日	札幌市地図教育研究会	第 39 回 札幌市児童生徒社会研究作品展	
令和元年 10 月 28 日	環境地図教育研究会 (旭川市)	第 29 回 私達の身の回りの環境地図作品展	北海道地図 (株) 小林社長
令和元年 12 月 1 日	多摩市	第 22 回 多摩市身の回りの環境地図作品展	稲垣会長
令和元年 12 月 14 日	鳥取県地域社会研究会	第 21 回 鳥取県児童生徒地域地図発表作品展	

稲垣会長 葛飾 FM に出演

日時:2020 年 1 月 31 日(金) 13 時 00 分~13 時 30 分 場所:葛飾区役所内葛飾 FM

アナウンサー:葛飾 FM 葛西優香様 葛飾 FM 周波数:78.9MHz。

タイトル:ハザードマップの分かり易い見方について

可聴範囲:東京都 葛飾区・足立区・台東区・墨田区・荒川区・文京区・江戸川区・江東区

埼玉県 三郷市・八潮市・草加市 千葉県 市川市・浦安市・松戸市・流山市・柏市・船橋市

リスナー人数:約 300 万人



1. ハザードマップは、国や自治体が災害対策基本法を踏まえて「様々な自然災害から地域住民の生命と財産を守るために整備した様々な備えを表示した大事な情報地図です。防災／減災を目的とした「主題図」とも言えます。
2. 葛飾区は、北の大宮台地、西の武蔵野台地、東の下総台地に囲まれた「東京低地」と呼ばれる低い土地にあり、荒川と江戸川に挟まれているので、自然災害としては水害対策が大事です。
3. 日常生活ではいつも水平目線で周囲を見ているから、自分の生活空間が低い土地であると認識しにくいと思います。また、個人にとって足りない情報もあるのではと思います。だから皆さんのお手元にハザードマップが届けられたら、買い物ついででも散歩ついででも構いませんから家族でハザードマップを持って外出し、防災／減災の目線で気になる場所や気がついた事を書き込んで下さい。そうすると身近な生活空間の情報を加えた「我が家のハザードマップ」になります。
4. 防災／減災を職務とする行政職員も区長さんも皆さんと同様に被災者となります。東日本大震災の時、防災無線で住民の方々に避難を呼びかけ続けた女性職員の方が津波にのまれて亡くなりました。また、水門を閉めに行った消防団員の方が亡くなられたことを記憶されていると思います。「命と財産を守る防災／減災活動は住民と行政のワンチーム活動が大事だ」と思います。

日 本 測 量 協 会
2020年3月 6日

2019年度に実施した広報活動

1 測量の日実行委員会事務局等としての活動

- ①ポスター(21,000)、パンフレット(39,000)作成。関係府省、自治体、関係団体等約300箇所に配布。
- ②建設関係専門紙(3紙)への広告記事掲載。他の建設関係専門紙への記事掲載。
- ③記念グッズの作成(測量業者等への実費販売を行いイベントに活用)
今年度は「マッピーくん定規シート」 約2.5万枚。
- ④G空間EXPO会場内で「測量の日」関連の広報活動(11月28～30日)
- ⑥その他、各支部において「測量の日」関連行事(講演会、展示など)実施

2 測量・地理空間情報イノベーション大会の開催

- ①2019年6月12～13日、東京大学、参加者数2,080名。
- ②主として測量技術者を対象
- ③別紙の「実施報告」参照

3 G空間EXPO2019／地理空間情報フォーラム2019 の開催

- ①2019年11月28～30日、日本科学未来館、来場者数15,513名。
- ②広く一般対象
- ③別紙の「実施報告」参照

4 夏のリコチャレに参加

日本測量協会に設置している「測量・地理空間情報女性の技術力向上委員会」(ソクジョの会)がリコチャレ＝「学生のための建設産業界体感イベント」に参加し、学生に測量・地理空間情報の仕事の魅力等について紹介した。

- ①2019年8月2日(木)、秋葉原UDX
- ②建設通信新聞社主催、国土交通省・日本測量協会等関係団体が後援

「理工チャレンジ」略して「リコチャレ」とは
内閣府等の取り組み。

理工系分野に興味がある女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして進路選択（チャレンジ）することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組み。

理工系分野が充実している大学や企業など『リコチャレ応援団体』の紹介や、団体が実施するイベント情報の提供、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っている。（内閣府HPより）

5 「測量・地理空間情報女性の技術力向上委員会」（ソクジョの会）が大学等を訪問

「ソクジョの会」が下記の大学等を訪問し、測量・地理空間情報の仕事の魅力等について紹介。

- ① 2019年7月8日 中央工学校 （約30名）
- ② 2019年10月15日 名古屋大学 文学部（約60名）

「第5回 測量・地理空間情報イノベーション大会」実施報告

開催 2019年6月12日(水)13日(木)

日本測量協会では、公益事業の一環として、測量・地理空間情報に関する技術とそれを利用した新ビジネスの展開、さらには人材育成やそのための教育研修など、この分野の技術革新（イノベーション）に資する幅広い議論と情報発信などを目的とする「第5回 測量・地理空間情報イノベーション大会」を6月12日(水)・13日(木)に東京大学伊藤国際学術研究センターにて開催した。同センターと当協会9支部の会場を結んで同時中継を行い、両日併せて2,080名の参加者があった。以下にその概要を報告する。

なお、発表者の職位・名称等は本大会時点のものを表記した。

1. ねらい

測量・地理空間情報の技術動向等を知る場として、毎年11月に開催されている「G空間 EXPO」が頭に浮かぶ。「G空間 EXPO」では、産学官の連携によりG空間社会の裾野の広がりを国民社会に発信し、新しいサービス、技術の向上、関係者相互の連携と交流、新しい提案の発掘や創意工夫の場として機能している。そのために展示や講演・シンポジウム、体験イベント等が開催され、一般人から専門家まで幅広いニーズに対応している。

一方、「測量・地理空間情報イノベーション大会」では、G空間を支える基盤技術である測量・地理空間情報技術にもっとスポットを当て、技術動向や技術間の融合、独自技術による新事業化など、“プロ”が“プロ”に向けて“プロの情報”を発信し、それを共有できる場を目指している。なお、本年の大会においても参加者には測量 CPD 登録手続き等の関係から事前登録制とした。

2. 第5回大会の特色

これまでの大会と同様、全国9支部とのネットワークやポスターセッションなどを通じて、最新の測量・地理空間情報技術を発信した（図-1～3）。加えて、測量界の果たすべき役割、現在求められている測量技術者像、測量界での広報のあり方、人材確保・人材育成、測量の広がりなどを測量・地理空間分野の今日的な課題等について発表と討議をした。

大会初日には、準天頂衛星受信機の最新動向や自動運転支援ダイナミックマップの基盤整備状況など、現在注目されている測量・地理空間情報技術とその利活用に焦点を当て、加えて、午後は基調講演と大手測量会社4社長による「経営者が考えるこれからの測量」など興味深いセッションを開催した。大会2日目は、測量・地理空間情報分野の今日的な課題に焦点を当て、測量・地理空間情報の最新の利活用技術、人材確保・育成、他分野の測量とその認識（今後の測量サミット（仮）に向けての序奏）など、ユニークなセッションを開催した。



図-1 伊藤謝恩ホールでの
開会風景



図-2 各地域での受講風景



図-3 多目的スペースでの
ポスターセッション風景

3. プログラム構成と概要

大会プログラムは表のとおりである。

2019年6月12日(水)

時間	伊藤謝恩ホール(500人)	多目的スペース(100人)	ギャラリー1(80人)	ギャラリー2(50人)
10:00-10:15	主催者挨拶・後援挨拶(ホール)			
10:15-12:00	地理空間情報技術の最前線	UAV利活用最前線 ～大規模災害特集～	測量技術センター ～公共測量成果の品質確保～	ベンダーフォーラム
	準天頂衛星受信機の最新動向 一財)衛星測位利用推進センター 松岡 繁	H28台風10号被災調査と河道維持管理に向けた調査試行 (株)タックエンジニアリング 千葉 一博	公共測量成果の品質の現状と課題 (公社)日本測量協会 丸山 一司	リーグルジャパン(株) RIEGLプライド TLS/ULSの超進化 ライカジオシステムズ(株) 世界最小、最軽量地上設置型レーザースキャナー BLK360
	高精度測位時代の自動運転支援ダイナミックマップ基盤整備状況 ダイナミックマップ基盤 (株)柳澤 哲二	UAVを用いた災害時の活用について (株)ナカノアイシステム 本間 弘幸	地上レーザ測量 (株)ナカノアイシステム 西條 寛	(株)イメージワン Pix4Dmapperの活用と事例紹介
		UAVを活用した災害対応事例 中日本航空(株) 北村 将平	UAV写真点群測量 (株)北斗測量設計社 五十島 亨	(株)ニコン・トリニブル Trimble SX10を利用した3次元計測事例
12:00-13:00	昼休み			
13:00-14:00	基調講演	休室	基調講演	休室
	測量・地理空間情報に出会い、導かれて、はや45年(公社)日本測量協会 矢口 彰		同時web中継	
14:00-15:00	休室	ポスターセッション	休室	
15:00-17:00	経営者が考えるこれからの測量	これからの自動処理ツール	女性の技術力向上委員会 ～バイオニアに学ぶ～	ベンダーフォーラム
	未来から見る測量 (株)バスコ 島村 秀樹	SfM/MVSとその応用 アジア航測(株) 野中 秀樹	私の子育て奮戦記 元豊橋創造大学短期大学部 寺本 和子	エアロセンス(株) ロボット×AI技術で、測量現場に変革を with 全国ASパートナーズ
	国際航業が考えるこれからの空間情報技術 国際航業(株) 土方 聡	SLAM技術の測量への適用 国際航業(株) 阿部 亮吾	継続は力なり (株)サテライトイメージマーケティング 田村 洋子	(株)コア みちびきセンチメータ測位技術を始めた弊社GNSS技術のご紹介
	超スマート社会を拓け アジア航測(株) 小川 紀一郎	オープンソースソフトウェアQGISでイノベーション 朝日航洋(株) 大伴 真吾	パネルディスカッション 令和を生きる女性たちへ	(株)トブコン トブコンのBIMソリューション ルーチェサーチ(株) UAVレーザ計測 実績を通して浮かび上がってきた活用方法と課題点 (株)快適空間FC マルチプラットフォームLiDARシステムによる効率的な3次元計測について (株)小泉測機製作所 Hi-Target社 最新GNSS受信機とソリューション(PPP, PPK, VRS)の紹介
17:30-19:00	休室	懇親会	休室	

2019年6月13日(木)

時間	伊藤謝恩ホール(500人)	多目的スペース(100人)	ギャラリー1(80人)	ギャラリー2(50人)
10:00-12:00	注目の空間情報技術 ～UAVの新たな動向～	技術開発ニーズと取組み ～技術開発から学ぶ事～	スペシャリストの会 ～飛躍する空間情報総括 監理技術者～	人材育成 ～測量界への誘い～
	測量をとりまく最新3D技術 の動向 国際航業(株) 村木 広和	新しい技術が実務に使える ようになるまで一ネット ワークRTKの場合 (株)ジェノバ 今給黎 哲郎	「空総監」資格の活用状況と 期待される技術者像 (株)パスコ 林 義政	工業高校におけるサーベ イヤー育成の現状と教育実践 一茨城県立下館工業高等学 校での実践を例として一 茨城県立下館工業高等学校 中村 泰子
	UAVの最新技術動向と実利用 ルーチェサーチ(株) 渡辺 豊	ナビゲーションを支える地 図技術開発から学ぶ事 一財)日本デジタル道路地 図協会 織田 和夫	地域での活用(経営者)「地域中 小企業の経営者としての空間 情報総括監理技術者の魅力」 サン・ジオテック(株) 金久保 豊	京都市立京都工芸高校の 特色ある教育活動を通した 人材育成 京都市立京都工芸高等学校 尾崎 嘉彦
	UAVの災害対応に求めら れる技術とその社会展開 防災科学技術研究所 内山 庄一郎	レーザ計測技術と表現技術 朝日航洋(株) 横溝 和則	地域での活用(技術者)「地 域中小企業の技術者が、ど のように合格したか」 (株)エクセルコンサルタント 古川 晃正	パネルディスカッション について アジア航測(株) 池田 晃三
12:00-13:00	昼休み			
13:00-15:45	測量サミット ～近代測量150年～	強化対応とレーザ計測 利活用事例	ジオメトリストの会 ～これからの3次元地形 データ整備～	今後期待される新たな 空間情報の利活用
	近代測量150年：新しい節 目を迎えて 国土地理院 鎌田 高造	国内登場から20年、航空 レーザ計測の最新動向と利 活用事例について アジア航測(株) 大鋸 朋生	リモートセンシング技術 を用いた山村境界基本調査 (株)松本コンサルタント 猪木 幹雄	セッションの趣旨と概要/ 空間情報技術を活用した価 値創造 (株)ティコク 早川 和夫
	河川分野におけるレーザド ローンの活用について (株)パスコ 森田 真一	3Dに関する弊社の取り組 みについて サン・ジオテック(株) 中山 元	UAVに関する弊社の取り組 みについて サン・ジオテック(株) 中山 元	LPデータ、UAVによる可 視画像・マルチスペクトル を用いた湿地調査 (株)ティコク 水野 歩未
	鉄道分野における測量調査 の変遷 公財)鉄道総合技術研究所 小野田 滋	地上レーザスキャナによる 災害計測事例 (株)みずろ総合コンサルタント 高藤 亨仁	UAVレーザの活用事例 (株)大興計測技術 小川 孝之	航空レーザ計測やIoTを活 用した林業改革 アジア航測(株) 柄澤 孝和
15:45-16:00	日本の地籍 その歴史と展望 鹿島建設(株) 鮫島 信行	UAVレーザによる強化 への利活用事例 (株)日本インシーク 鳥山 類	UAVレーザ測量について弊社 の取組みと課題 昭和測量(株) 吉田 奏司	農業分野への利活用 (株)タックエンジニアリング 佐々木 聖
	インフラ維持管理の効率 化・高度化に資するMMS 計測の活用事例 朝日航洋(株) 山川 隆夫	地図表現としての3次元 データ 東京カートグラフィック(株) 木之下 章	高密度航空レーザ計測デー タによる史跡調査 中日本航空(株) 小野 貴稔	文化財建造物の保存・管理 に向けた空間情報の利活用 (株)計測リサーチコンサルタント 西村 正三
			パネルディスカッション これからの3次元地形デー タ整備と人材育成	まとめ/計測技術を活用し た価値創造と新たな分野 (市場開拓)への挑戦 (株)ティコク 早川 和夫
15:45-16:00	まとめ・閉会(ホール)			

4. まとめ

この大会では、発表された技術や利用事例など、いわば“技術的な素材”から参加者らが、それらの技術を融合させた新たな利活用やビジネスなど、技術革新（イノベーション）への糸口を見出していただくことを大きなねらいとしている。そのために当協会では継続的に、この大会を開催していきたいと考えている。

今回大会では、UAV や SLAM、自動処理、センサ融合など一歩先・半歩先の技術動向の提供ができたものと思っている。加えて、成熟化したように思いがちの技術においても、更なる技術進化の前兆等の情報発信ができたものと考えている。

また、大会初日に午後に開催した「経営者が考えるこれからの測量」においては、それぞれの企業の新しい事業や事業開発に向けたマインド、人材育成などが語られ、その基盤になるのが測量・地理空間情報技術であることを異口同音に語られていたことは広く測量界で生活する人たちにとって強い支えになると感じた。

さらには、こらからの測量・地理空間情報技術者には、シーズだけからの発想ではなく、ベンチャー精神などニーズに対応した発想やそのためのスキル向上がより一層求められることを再認識した次第である。

当協会では、技術者のみに限らず、経営者、営業担当者、企画・人事担当者など幅広く測量・地理空間情報分野に係わる方々が気軽に参加できるような環境の整備に、なお一層努める所存です。今後とも当協会の公益事業の一環として継続的に開催して参りますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

（月刊『測量』2019年11月号記事他から再構成）

Geo spatial G空間EXP 2019

地理空間情報科学で未来をつくる



テープカット

左から

一般社団法人地理情報システム学会	小口会長
一般財団法人衛星測位利用推進センター	岡部理事長
公益社団法人日本測量協会	清水会長
日本科学未来館	毛利館長
国土交通省	深澤政策統括官
国土交通省国立地理院	黒川院長
内閣府宇宙開発戦略推進事務局	松尾局長



会場風景



Geoアクティビティコンテスト



測量船 一般公開



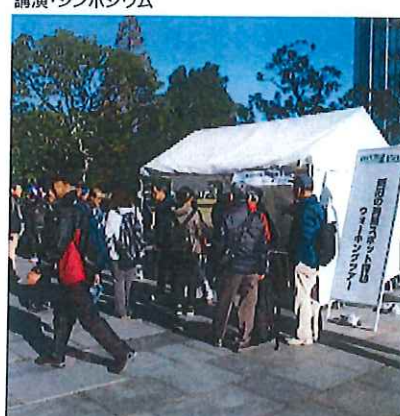
講演・シンポジウム



マッピー



ソクジョCafe



ウォーキングツアー

地理空間情報フォーラム2019開催

1. はじめに

第9回目となるG空間EXPOが昨年11月28～30日、日本科学未来館で開催されました。初日は雨天に見舞われ入場者数が気になるところでしたが、最終的には昨年よりも多い、延べ15,513人となりました。本イベントは、地理空間情報活用推進基本計画（平成29年3月閣議決定）に基づき産学官連携のもと、準天頂衛星などにより高精度化する衛星測位とこの仕組みを支えるG空間情報について、広く国民社会に情報発信することを目的として開催されます。今回は準天頂衛星による測位サービスの進展もさることながら、地理空間情報の様々な分野での利活用が定着してきたことが伺われ、まさに“地理空間情報を高度に利用する社会”が始まりつつあると感じられます。

オープニングセレモニーで主催者代表として青木一彦国土交通省副大臣（国土交通省深澤典弘政策統括官代読）から「地理空間情報は生活に欠かせない存在。昨年に4機の準天頂衛星による測位サービスが開始され、自動運転、ドローン物流、またスマート農業などはsociety5.0に貢献する。また、防災分野でもドローン等による災害状況の迅速な把握、地域における産業創出など、今後国土交通省も力を入れて取り組む」との挨拶がなされました。また共催者代表である毛利衛日本科学未来館館長から「当館は最先端科学技術进行展示し情報共有することを重視している。こうした観点からG空間EXPOは合致している。準天頂衛星の高精度測位は令和の新しい技術として位置づけられる」との挨拶がなされました。さらに主催者（産代表）として当協会清水英範会長から「G空間EXPOで測量系4団体（（公社）日本測量協会、（一社）全国測量設計業協会連合会、（一社）日本測量機器工業会、（公財）日本測量調査技術協会）は第1回から地理空間情報フォーラムを運営してきた経緯がある。今回は展示場中央にICC2019組織委員会（第29回国際地図学会議組織委員会）の成果展示を中心とする共同出展があり、また今年は近

代測量150年にあたることから、近代測量150年とi-Constructionについての講演会が未来館ホールで開催される。皆様方に是非足を運んでいただきたい」との挨拶がなされました。

G空間EXPOは産学官連携のもと、地理空間情報フォーラム、Geoアクティビティコンテスト、講演シンポジウム、の構成により開催されます。以下に今回の開催概要を記します。

2. 開催概要

(1) 展示フロア

例年1F会場は関係団体や企業による展示が行われますが、今年は25団体の出展がありました。出展は大きく「安心と暮らしのゾーン」、「地理教育と地方創生ゾーン」、「情報の発信と豊かな社会ゾーン」の3つのゾーンに区分され、それぞれのテーマに沿った展示がなされました。

「安心と暮らしのゾーン」では内閣府宇宙開発戦略推進事務局による準天頂衛星「みちびき」の最新動向や新型レーザスキャナ等の展示がなされていました。地理空間情報を利用するドライブシュミレータや地理空間情報最新システムにおいては人工知能など先進機能を搭載するなど、高度な新技術がいよいよ実用化に向けて動き出した印象を受けました。

「地理教育と地方創生ゾーン」では「地域社会の発展的将来へ貢献するG空間情報ソリューション～ICC2019東京から地図・空間情報の未来へ～」というテーマで第29回国際地図学会議組織委員会他11団体が展示フロア中央部分に共同出展がなされました。ここ数年、地図を主体とする展示が少なかったせいか、改めて地図



の力を知る機会となりました。

「情報の発信と豊かな社会ゾーン」では国土交通省高精度測位社会プロジェクト、国土地理院、総務省統計局、といった国の機関のほか、多くの測量関連団体がそれぞれ取り組んでいました。なかでも近代測量150周年記念事業推進会議の展示はまさに今年ならではの取り組みでした。

(2) 講演シンポジウムとイベントなど

■初日(11月28日木曜日)

メインステージでは午前10:00からオープニングセレモニーが行われ、その後は出展企業・団体によるベンダーフォーラムが行われました。日本科学未来館7階未来館ホールでは内閣府宇宙開発戦略推進事務局による「みちびき(準天頂衛星システム)講演会」と「地理空間情報フォーラム2019主催講演会」が開催されました。前者は昨年度に開始された4機体制による「みちびき」の測位サービスを利用する海象モニタリング、排雪業務の高度化など利活用事例を中心に講演がなされました。後者は当協会を含む測量系4団体が主催した講演会です。近代測量150年を記念して「地図が語る日本の歴史(我が国の測量と地図史秘話)」を菊地正浩氏に、国土交通省の「i-Constructionをはじめとした3次元データの取組みについて」を同省大臣官房技術調査課長岡村次郎氏に講演いただきました。「地図が語る日本の歴史(我が国の測量と地図史秘話)」では近代測量150年の最初にあたる1869(明治2)年の民部省設置以降における三角点・水準点測量、陸地測量部における測量、戦後の地理調査所(現国土地理院)の誕生にいたる経緯について、知られざるエピソードも交えて講演がなされました。「i-Constructionをはじめとした3次元データの取組みについて」ではi-Constructionによる生産性革命に関する取組み、国土交通省データプラットフォーム、スマートシティモデル事業の推進、建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト(PRISM)、について講演がなされました。

他会場ではgコンテンツ流通推進協議会による「gコンテンツワールド2019」、日本写真測量学会と日本リモー

トセンシング学会による「気候変動適応と衛星地球観測」、国土地理院による「第11回地理院地図パートナーネットワーク会議」が開催されました。



■2日目(11月29日金曜日)

メインステージでは国土地理院が主催するGeoアクティビティコンテストのプレゼンテーションが開催されました。今回で9回目となりますが、年々参加団体が増え今回は21作品の応募がありました。また、最近では大学生や高校生グループの参加も定着し、地理空間情報の活用事例についても、地域それぞれの社会活動に貢献するものが多くなってきました。地理空間情報が様々な分野で有効に利活用できることの理解が広く浸透し始めたことが実感されます。

未来館ホールでは(一財)衛星測位利用推進センターによる「SPACシンポジウム2019」が開催されました。前日の「みちびき(準天頂衛星システム)講演会」は「みちびき」の利活用事例が主たる内容でしたが、こちらは「みちびき」とSociety5.0に係る新技術により実現される新たな社会をテーマとして開催されました。他会場では国際地図学会議2019東京会議事務局・日本地図学会による「ICC2019東京 国際地図学会議振り返り-現代地図学の現状と課題-」、G空間情報センターによる「G空間情報センター ユーザ会」、東京大学空間情報科学研究センター「CSISシンポジウム2019(モビリティの未来と空間情報)」が開催されました。

また、7階展望ラウンジ(ミライカンキッチン付近)では第4回となるソクジョカフェが開催されました。参加者は年々増加の一途をたどり、今回は全体で35名の参加を

得ました。展示フロアへの出展団体、シンポジウム参加団体などG空間EXPO関係団体の女性メンバーとソクジョメンバーの有意義な交流がなされました。このほか、屋外で初日は雨で実施できなかった(公社)日本測量協会による「距離を測る体験(歩測大会)」が寒空の中実施されました。

■3日目(11月30日土曜日)

初日と2日目は関係団体・企業向けの内容でしたが、3日目は土曜日ということもあり、広く一般向けの構成となっています。

メインステージでは国土地理院による「Geoアクティビティコンテストダイジェストと表彰式」、同じく国土地理院による「世界に貢献する日本のウェブ地図技術」、GIS学会自治体分科会による「地域活動での自治体GISの活用についてー自治体GISとまちげー・まち歩き・まちづくりー」、当協会による「測量コンテスト表彰式」が開催されました。

「測量コンテスト」は大学2チーム、高等専門学校3チーム、専門学校4チーム、高等学校6チームの合計15チームで競われました。審査の結果、今回はチーム名「中央工C」(中央工学校)が総合優勝に輝きました。

他会場では(公社)日本地理学会による「令和時代のツーリズム空間～地域戦略のまなざし～」,(一社)地理情報システム学会、日本地図学会による「"地理総合"に向けたGIS活用の手引き」,が開催されました。どちらのテーマも広く一般の方々の意識したプログラム構成でし

た。また、会場外では恒例の海上保安庁の測量船「海洋」が一般公開され、多くの方々が船内を見学されました。

3. 今後に向けて

昨年の時点で準天頂衛星などの高精度測位システムや地理空間情報の相互利活用が図られるG空間情報センターなどのインフラが揃ったところです。今年のG空間EXPOでは派手さのないものの、新たな技術開発や地理空間情報の利活用に進展を感じられました。新たな技術開発については、AIを活用するシミュレータや自律走行などの出展が幾つかあり、地理空間情報の利活用についてはGeoアクティビティコンテストでは地域社会の課題解決に向けた取組み事例が多数みられたことや、G空間情報センターユーザ会、地理院地図パートナーネットワーク会議、でも利活用分野の拡大など見ることができました。特に実社会の課題解決に地理空間情報が利活用される展開は、まさに地理空間情報活用推進基本法の理念が具体化しつつあると感じられます。

今後、このような活動と新たな技術開発を積み重ねることで、地理空間情報を高度に利活用する社会を実感できる時代が迎えられると思います。そのために様々な創意工夫などの取組みが求められる事はいうまでもありません。一方で、少子高齢化に端を発する担い手不足といった構造的課題や働き方改革などへの対応も待たなしの状況です。今まで以上に人材の確保や育成が急がれます。

(公社)日本測量協会 常務理事 住田 英二



令和1年度広報活動の取組報告

(公財)日本測量調査技術協会

1. 発表会・セミナー

(1) 第 41 回測量調査技術発表会

- ・日時:2019 年 8 月 2 日(金)09:55～17:45
- ・場所:新宿区四谷区民ホール(東京都新宿区内藤町 87 番地)
- ・参加者:299 名
- ・発表:研究発表13, 特別講演1, 基調講演 1, 部会報告等 4
- ・備考:「測量の日」関連行事、近代測量 150 年記念行事として開催

(2) TC 211 総会開催記念セミナー 2019 in 大宮

- ・日時:2019 年 12 月 12 日(木)12:50～17:15
- ・場所:大宮ソニックシティ 市民ホール2(さいたま市大宮区桜木町1丁目 7-5)
- ・参加者:123 名
- ・発表:技術セミナー5, 特別講演2
- ・備考:ISO/TC 211 第 49 回総会と並行し、同じ会場で実施

2. 地区事業委員会併設社会技術動向講演会

- ・全国 5 地区で開催。
- ・河川管理における 3 次元データ活用、新技術を活用した河川維持管理の取り組み等について、国土交通省や会員会社による講演を実施

3. 図書刊行

(1) 機関誌『先端測量技術』

- 112 号 (2019 年 7 月) 特集 地理情報標準の四半世紀、
地理空間計測・活用技術セミナー 2018 in 金沢
- 113 号 (2019 年 12 月) 速報 ISO/TC 211 第 49 回総会
特集 第 41 回測量調査技術発表会

(2) 『公共測量積算ハンドブック』

2019 年版を 11 月に発行

4. S-GI-Cert 地理情報標準認定資格

(1) 初級技術者講習試験

7 月 6 日 (土)、全国 5 会場 (仙台・東京・名古屋・大阪・福岡) で実施。受講者 249 名、受験者 253 名、合格者 162 名 (65.1.3%)

(2) 中級技術者講習試験

10 月 24 日 (木)～26 日 (土) (3 日間)、東京会場・大阪会場で実施。
受講者 44 名、受験者 63 名、合格者 13 名 (20.6%)

(3) 上級技術者試験

5 月 26 日 (日)、東京会場で実施。受験者 17 名、合格者 4 名 (24.7%)

5. G 空間 EXPO 2019

- ・会期:令和元年 11 月 28 日 (木)、29 日 (金)、30 日 (土)
- ・会場:日本科学未来館 (東京都江東区青海 2-3-6)
- ・測技協展示ブースにて測量調査技術の最近 10 年間の変遷年表を掲示し、訪問客のコメントを募集した。

On-site Seminar at TC 211 plenary meeting 2019 OMIYA
TC 211 総会開催記念セミナー 2019 in 大宮

どなたでも
 参加できます！
 申込みは
 こちらから！

2019年12月12日（木）

12:50-17:15

大宮ソニックシティ 市民ホール2(402)
 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7-5

参加料無料

測量CPD/設計CPD※
 認定プログラム

4ポイント



当協会が推進する公益目的事業の一つである技術普及活動の一環として、毎年地域にて地理空間計測・活用技術セミナーを開催し、最新の空間情報技術の紹介や利活用動向の報告等により、地域への情報発信・情報提供を実施してまいりました。本年度は第49回ISO/TC 211の総会がさいたま市大宮区で開催されることに伴い、当地にて地域セミナーを継続開催することいたしました。今般も開催地域の話題、周辺技術を含めた空間情報技術、及びISO関連等の話題を提供いたします。

主 催：公益財団法人 日本測量調査技術協会
 後 援：国土交通省国土地理院
 一般社団法人建設コンサルタント協会関東支部
 一般社団法人全国測量設計業協会連合会
 参加申込：事前登録制 締切12月4日（開催日会場で受付可）
 ホームページ[セミナー]：<http://www.sokugikyo.or.jp>

参加者に測量CPD、設計CPDのポイントの取得申請に使用できる参加証明書を交付します。
 ※設計CPD認定プログラムのポイントは建設系CPD協議会のCPD制度との連携が行われています。

プログラム（予定） ※プログラムは変更になる場合がございます。

12:50-12:55		ガイダンス	公益財団法人日本測量調査技術協会 技術普及部会長 (国際航業株式会社)	今井 靖児
12:55-13:00		主催者挨拶	公益財団法人日本測量調査技術協会	理事・事務局長 津澤 正晴
13:00-14:00 ◆ 地域活性化ワークショップ				
1	13:00 - 14:00	(特別講演1) 埼玉県政出前講座 埼玉の魅力を全国に発信！	埼玉県 広聴広報課 魅力発信担当	小林 直樹
14:00-15:20 ◆ 技術情報セミナー				
2	14:00 - 14:20	測位・測量成果への地理情報標準(品質管理)の活用	アイサンテクノロジー株式会社	中根 勝見
3	14:20 - 14:40	UAVを用いた3次元計測の現状と公共測量への適用	国際航業株式会社	村木 広和
4	14:40 - 15:00	クラウドGISによる建物被害認定調査の効率化、最新の地震水害事例	ESRIジャパン株式会社	濱本 両太
5	15:00 - 15:20	韓国における空間情報ビジネスの状況 ー2019日韓空間情報技術フォーラムよりー	アジア航測株式会社	畠 周平
(15:20-15:30 休憩 Tea break)				
15:30-17:30 ◆ TC 211総会開催記念ワークショップ				
6	15:30 - 16:10	地理情報標準と認定資格制度	公益財団法人日本測量調査技術協会 講習試験委員長 (朝日航洋株式会社)	大伴 真吾
7	16:10 - 17:10	(特別講演2) ～“その場”の価値を最大化する～ 産業の現場で活用される位置空間情報技術とその応用事例	マルティス株式会社	代表取締役 那須 俊宗
17:10-17:15		閉会挨拶	公益財団法人日本測量調査技術協会	専務理事 斉藤 和也

公益財団法人日本測量調査技術協会 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-40-11 看山ビル9F
 TEL03-3362-6840 Email: toiawase@sokugikyo.or.jp

※このセミナーのテキストは、当協会のホームページよりダウンロードしていただく予定です

2019125in

2020年2月20日 測技協40周年

新年のごあいさつと測技協40周年にむけて

あけましておめでとうございます。

公益財団法人日本測量調査技術協会（測技協）は、2020（令和2）年2月20日（木）に、設立40周年となります。

これを記念して、記念誌の編纂・発行や記念行事の開催等を計画しています。

本年も、よろしくお願いいたします。

測技協は、1980（昭和55）年2月20日、当時の建設大臣から財団法人として認可され測量調査技術の開発と普及に貢献してまいりました。1995（平成7）年には、通商産業省（現・経済産業省）の日本工業標準調査会（現・日本産業標準調査会）から、国際標準化機構の地理情報標準に関する専門委員会（ISO/TC 211）の日本国内審議団体に認定され、地理空間情報の国際標準化活動に貢献してまいりました。公益法人制度改革に伴い、2012（平成24）年4月1日公益法人制度改革に伴い測技協は内閣府が所轄する公益財団法人として認可されました。今後とも、引き続き、公益目的事業としてわが国の測量調査技術の高度化、測量調査成果の品質向上及び地理空間情報の利用促進に資する公益事業を展開してまいります。

2020（令和2）年1月

◆冊子とWEBを連携してお届けします！

『先端測量技術』は、111号から、より手に取りやすく、持ち運びもしやすいように、冊子の軽量化を図り、以前と比べて重さは約2/3となりました。また、内容の重複や余白を作らない等、コンテンツの見直しとレイアウト調整をすすめています。それにとともに、冊子には掲載しきれない図表や詳細等を、当協会のWEBサイトより閲覧していただけるようにいたします。

今後も冊子とWEBを連携して、より多くの情報をお届けいたしますので、『先端測量技術』をよろしく願いいたします。

WEB このマークの付いたコンテンツはWEBサイトに詳細を掲載しています

www.sokugikyo.or.jp



『先端測量技術』113号 目次追加情報から

広報関係の取組（令和元年度）

一般財団法人日本地図センター

① 夏休み地図教室

時期 7月26日（金）、27日（土）、29日（月）
8月23日（金）、24日（土）、26日（月）

会場 日本地図センター会議室

内容 小学校中～高学年向けの内容で、近隣の教育委員会の後援を得て、講師の話のほか、保護者と一緒に地図を遊ぶ。今年のテーマは、「3D 富士山を作ってみよう!」、「世界を食べる地図作り!」、「手作り地球儀に挑戦しよう!」。

② 教員免許状更新講習（文部科学省認定講習）

・時期 8月2日（金）

会場 日本地図センター会議室

内容 「地図総合」

大学で地理学を専攻しなかった先生やこれまで地図に深く接する機会の少なかった先生を対象として、地図についての基礎知識を学ぶ。

・時期 8月21日（水）

会場 日本地図センター会議室

内容 「地図探求」

大学で地理学を専攻した先生や地理を専門に教え、地理や地図に関して一定の知識をお持ちの先生を対象として、地図に関する専門知識をより深く学ぶ。マップリーダー研修会を兼ねる。

③ 児童生徒の職場訪問学習

時期 7月9日（火）～7月11日（木）

会場 日本地図センター会議室等

内容 目黒区立第一中学校の生徒を受け入れ、地図づくりの現場での体験学習を行う。

④ 地図倶楽部イベント（内容は別添資料参照）

・「測量用飛行機見学会」

時期 4月26日（金）

会場 調布飛行場 共立航空撮影棟調布格納庫

・「地質標本館見学会」

時期 11月29日（金）

会場 地質標本館

・「新宿歴史博物館見学会」

時期 12月8日（日）

会場 新宿歴史博物館

⑤ 地理文化講演会

・時期 5月25日（土）

会場 日本地図センター会議室

内容 「気温暖化議論」大村 ^{あつむ} 篤氏（スイス連邦工科大学名誉教授）

・時期 8月31日（土）

会場 日本地図センター会議室

内容 「尖閣諸島初めての総合調査」藤田 宗久氏（元沖縄開発庁総務局企画課企画専門官）

夏休み

《小学校 3~6 年生向け》

地図教室 2019



地図っておもしろい!
みんな一緒に地図と遊ぼう!

主催：(一財)日本地図センター

後援：目黒区教育委員会 渋谷区教育委員会 (順不同)

場所：一般財団法人日本地図センター 1 階

開催日程

2019 年

7月

26日(金)

27日(土)

29日(月)

8月

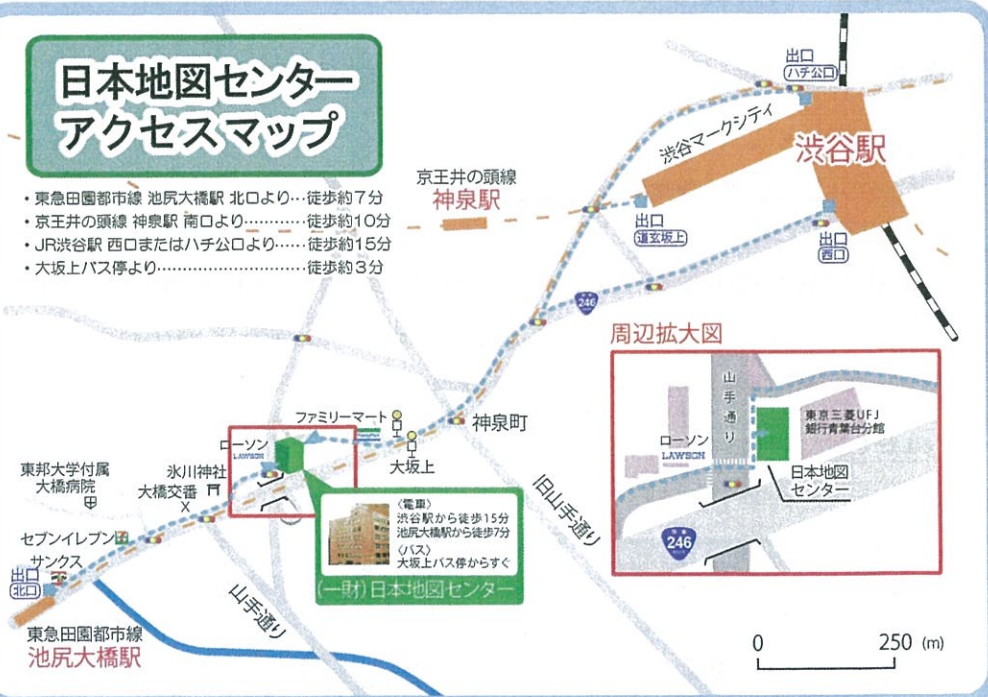
23日(金)

24日(土)

26日(月)

日本地図センター アクセスマップ

- ・東急田園都市線 池尻大橋駅 北口より…徒歩約7分
- ・京王井の頭線 神泉駅 南口より…徒歩約10分
- ・JR渋谷駅 西口またはハチ公口より…徒歩約15分
- ・大坂上バス停より…徒歩約3分



地図っておもしろい!! 子どもと保護者みんな一緒に地図と遊ぼう!!

いろいろなテーマで、みんなと一緒に楽しく地図を学びます。小学校中～高学年のお子様を対象です。講師の話を聞くほか、作業や体験もしていただきます。講座内で使用した教材は、お持ち帰りいただけます。

《開催講座》

時 間	講座番号・日 付		テーマ・内 容
	7月	8月	
A (朝) 9:30 ～ 11:30	726A 7月26日(金)	823A 8月23日(金)	「3D富士山を作ってみよう！」 ◆等高線を学ぼう! ◆地図を高さで塗り分けよう! ◆富士山3D模型づくり (小学3～4年生向け)
	727A 7月27日(土)	824A 8月24日(土)	
	729A 7月29日(月)	826A 8月26日(月)	
B (昼) 12:30 ～ 14:30	726B 7月26日(金)	823B 8月23日(金)	「世界を食べる地図作り！」 ◆一筆書きで日本地図を描こう! ◆スーパーのチラシ調査・生産国クイズ ◆食べ物世界地図を作ろう! (小学4～5年生向け)
	727B 7月27日(土)	824B 8月24日(土)	
	729B 7月29日(月)	826B 8月26日(月)	
C (夕) 15:00 ～ 17:00	726C 7月26日(金)	823C 8月23日(金)	「手作り地球儀に挑戦しよう！」 ◆地球の大きさはどれくらい? ◆地球儀を作ってみよう! ◆東へ西へ、まっすぐ進むとどこに着く? (小学5～6年生向け)
	727C 7月27日(土)	824C 8月24日(土)	
	729C 7月29日(月)	826C 8月26日(月)	

- ・テーマ・内容は変更が生じる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・日にちが違ってても、同じ時間帯で行われるテーマ・内容は同じです。
- ・いずれの講座も学年による参加制限はありません。小学3～6年生の方でしたらどなたでも全ての講座にご参加いただけます。

《募集要領》

- 定 員 各回 20組 (先着順・複数受講可) ※お子様と保護者(計4名以内)で1組とします。お子様のみでの参加はできません。
- 受講料 1組あたり 1000円 ※受講料には教材費1セットを含みます。教材を追加購入するときは、会場で実費をお支払いください。
- 会 場 (一財)日本地図センター 1階 (東京都目黒区青葉台4-9-6)

《申込方法》

インターネットの「夏休み地図教室申込みサイト」(下記URL)にて、ご希望の日時・講座を選択し、必要事項をご入力ください。

夏休み地図教室申込みサイト▶▶▶ http://www.jmc.or.jp/natsu_2019.html

受付開始 7月12日(金)
15時～(予定)

- ・申込みが完了すると、受付メールが自動返信されます。メールが届かない場合はお問い合わせください。
- ・受付は先着順です。すでに定員に達している講座は、申込み入力画面を開くことができません。
- ・キャンセル等により空きが出た場合、申込み画面が再度設定されます。なお、キャンセル発生による受付再開のお知らせはいたしません。お手数ですが、お客様ご自身で申込みサイトをご確認ください。
- ・持ち物や注意事項等は、申込みサイト内でお知らせしておりますので、ご確認ください。

□□□「夏休み地図教室」に関するお問い合わせ□□□

夏休み地図教室 係

((一財)日本地図センター 地図研究所 文化事業部 内)

電話: 03-3485-5417 FAX: 03-3485-5593 メール: ken2@jmc.or.jp

地図倶楽部イベント「測量用飛行機見学会」

2019(平成31)年4月26日、地図倶楽部の会員イベントとして、調布飛行場(東京都三鷹市)での「測量用飛行機見学会」を実施しました。

航空機による写真撮影は、過去から現在に至るまで高精度地図の整備に重要な役割を担っています。さらに近年はカメラに代えて各種センサーを搭載し、地球上の様々な情報を取得・解析することもおこなわれており、これらの情報は防災・減災・環境・国土管理などの幅広い分野に提供されています。

今回の見学会は、日本最大の航空撮影会社である共立航空撮影株式会社(以下、共立航空撮影)のご協力のもと、16名の会員の方にご参加いただきました。

旅客ターミナルビルから200mほど離れたゲートから飛行場に入り、まずは共立航空撮

影の会議室で運行機体やカメラの詳細、写真撮影やデータ処理等についての説明を伺いました。撮影当日の機体整備や機内での撮影機材の操作の様子から、撮影された写真データのモザイク処理まで、実際の作業風景の動画を用いた解説に参加者は興味津々でした。

休憩の後、いよいよ格納庫へ移動。引き続き共立航空撮影の方々に機材の説明や質問への対応をしていただきました。機体を間近に見るだけでなく、目の前に計器類が並ぶ操縦席に座ったり、搭載されているカメラを機内から、また機体の下に潜ってじっくり眺めるなど、貴重な体験ができました。

この後、再度、会議室で質疑応答の後に、見学会はおひらきとなりました。

当日は今にも降り出しそうな

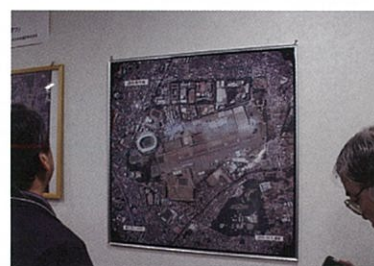
曇天でした。しかし、晴れた日は飛行機が撮影に出てしまうため、実は曇りの日こそが絶好の見学日和だったとのこと。天候にも恵まれ!?充実した時間を過ごすことができました。



共立航空撮影株式会社 調布格納庫



撮影業務の紹介



写真の展示コーナー



格納庫の見学を終えて



地図倶楽部 事務局 (一財) 日本地図センター 文化事業部 内

〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6

TEL 03-3485-5417 FAX 03-3485-5593 Mail map-club@jmc.or.jp

<http://www.jmc.or.jp/map-club.html>



「地質標本館」見学会レポート

地図倶楽部事務局

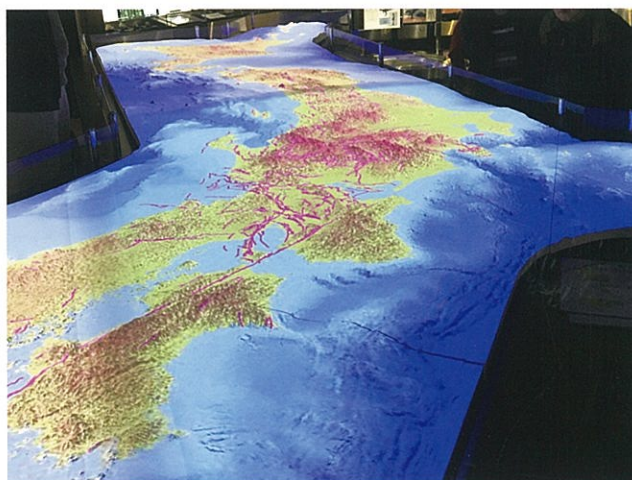
2019（令和元）年11月29日、地図倶楽部の会員イベントとして、地質標本館（茨城県つくば市）の見学会を実施しました。14名の会員の方にご参加いただきました。

地質標本館は、産業技術総合研究所・地質調査総合センターに併設された施設で、同センターの最新の研究成果が、岩石・鉱物・化石の標本あるいは地質・地震・火山についての模型などの形で展示されています。

数ある展示の中でもっとも地図好きの関心を引くのは、第1展示室の中央を占める、日本列島の34万分1立体模型でしょう。白色の立体模型には、プロジェクションマッピングにより様々な情報を投影することができます。今回の見学会では、地質標本館の館長である森田澄人さんと、この立体地図の製作担当である芝原暁彦さんに案内・解説していただきました。

立体模型は極めて精巧に作られていて、全国図でありながら東京の山の手・下町の標高差まで判別することができます。そこに段彩図や地質図などが投影される様子は圧巻でした。地質図は非常に細かく色分けがなされていますが、芝原さんによると、これでも分類としては足りないとのこと。しかし、人間が識別できる色の種類からすると、これが限界だそうです。

興味深い地質・地形は陸地だけではなくありません。立体模型を指しながら「海底にも谷があり川があります」と森田さん。見ると海底のところどころに溝が刻まれています。これは土砂を含んで重くなった水が海底を侵食してできたものの。



段彩図と活断層が投影された日本列島立体模型

日本の立体模型のプロジェクションマッピングのほかにも、関東の地質、富士山と箱根火山の地質、太平洋の海底地形などを表した立体模型があり、非常に見応えがありました。4つの展示室を見て回り、岩石・鉱物・化石の標本が整然と並べられている第4展示室に到達したところで自由見学・解散となりました。この第4展示室だけでも、好きな人はこの部屋だけで1日過ごすこともあるとか。

時間がいくらあっても足りない、今度は自分のペースで回るためにもう1度来たい。そう思わせてくれる充実した地質標本館の見学会でした。



「岡谷断層はぎ取り標本」前で



地質標本館



関東の地質について説明する森田館長



富士山の地質立体模型

地図倶楽部 事務局（一財）日本地図センター 文化事業部 内

〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6

TEL 03-3485-5417 FAX 03-3485-5593 Mail map-club@jmc.or.jp

<http://www.jmc.or.jp/map-club.html>

雑誌86689-01



4910866890102
00800

地図倶楽部会員限定イベント (3月)

国土地理院見学会のご案内

●概要 恒例の国土地理院見学会では、「地図と測量の科学館」の見学施設や展示に加え、国土地理院本館の普段はなかなか目にする機会のない場所のご案内します。

●日時 2020 年 3 月 27 日 (金) 14 時 30 分～16 時 50 分 (予定)

●集合 14 時 25 分。国土地理院「地図と測量の科学館」(つくば市北郷 1 番) 入口付近で地図倶楽部の受付をおこないます。

●定員 先着 20 名。定員に達し次第、締め切ります。

●費用 無料

●交通案内 つくばエクスプレスつくば駅よりバスで約 10 分。最寄りバス停は「国土地理院」。

詳しくは国土地理院 Web サイトをご参照ください。 <https://www.gsi.go.jp/GSI/CONTACT-g-kotu.html>



地図と測量の科学館・地球ひろば
国土地理院 Web サイトより

◆お申込 お名前・地図倶楽部会員番号・当日の連絡先を明記の上、地図倶楽部事務局宛にメールまたは FAX でお申込みください。地図倶楽部 Web サイトにも詳細あり。 <https://jmc.entry-support.com/>
メール map-club@jmc.or.jp FAX 03-3485-5593
※お電話でのお申込みは承っておりません。ご注意ください。

「新宿歴史博物館」見学会 (12月) レポート

特別展『測量×地図 測り・描き・守り・伝える』の最終日 12 月 8 日に、地図倶楽部会員限定の見学会を実施し、20 名の方々にご参加いただきました。

展示は、伊能忠敬による日本地図とその測量方法の解説パネル、道具類のレプリカから始まり、明治期に始まった近代測量が人工



衛星を利用した GNSS 連続観測システムなど現代の測量技術に至るまでの地図と測量の歴史を、様々な地図や資料でたどるというものでした。

国土地理院以外では初公開となる、明治初期に全国測量の第一歩として作製された関東地方の二万分一迅速測図原図をはじめ、5 千分 1 東京図測量原

図の銅版とその製作用の彫刻刀や拡大鏡、三角測量に用いられた経緯儀や三角点の標石、測量用やぐらの模型。戦中・戦後の測量と地図をめぐる状況を示す資料や当時の地図、さらに三脚とトータルステーションや GNSS 測量機、そして噴火による地形の変化が確認できる西之島の立体模型へのプロジェクションマッピング。多彩な展示物に、参加者は熱心に見入っていました。

同館学芸員の後藤理加氏の丁寧な展示案内と解説を聞きつつ測量と地図に関わる多くの「モノ」に



接することで、その歴史を知り技術の変遷を楽しく学ぶことができる見学会となりました。

地図倶楽部 事務局 (一財) 日本地図センター 文化事業部 内

〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6

TEL 03-3485-5417 FAX 03-3485-5593 Mail map-club@jmc.or.jp

<http://www.jmc.or.jp/map-club.html>



日本地図センター便り

■ 第9回地理文化講演会開催

「なぜ気候温暖化議論が社会を分断するのか？」

■ テーマ

なぜ気候温暖化議論が社会を分断するのか？

■ 概要

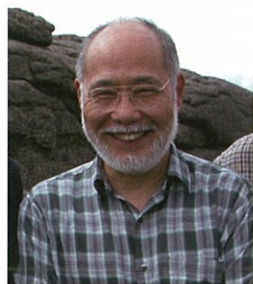
二酸化炭素による温暖化の学説は百年以上の歴史があり、広く受け入れられている相対論や量子論より古い歴史を持つ。それでいて確立された理論と観測で証明された立場にある温室効果と温暖化現象は『反対派』を擁し政治的議論の対象ともなっている。何故そうなるのか？温暖化現象の学説と反対派の意見を分析して、現代社会の問題点を突く。

■ 講師

大村 纂^{あつむ} 氏 (スイス連邦工科大学名誉教授)

■ 講師略歴：

北海道大学低温科学研究所、国立極地研究所、名古屋大学その他イギリス、オーストリアの大学で客員教授等を歴任
元国際雪氷学会会長



1965年：東京大学理学部地学科地理学課程卒業

1969年：マギル大学（カナダ・モンリオール）大学院で修士の学位を取得

1980年：スイス連邦工科大学（ETH）チューリッヒ校で博士の学位（自然科学）を取得
マギル大学、ETHで助手等を歴任後、1983年から2007年までETH教授

1996～1998年：東京大学大学院教授兼任
現在、ETH名誉教授、国立極地研究所顧問

■ 開催日時

2019年5月25日（土）

14時～15時30分

■ 会場

日本地図センター1階セミナールーム
（東京都目黒区青葉台4-9-6）

■ 定員

80名。どなたでも参加可能です。
定員に達し次第、締め切ります。

■ 参加費：無料

■ お申込

事前申込制です。
日本地図センターのWebサイト
<http://www.jmc.or.jp/event.html>
よりお申込みください。

■ 交通案内

池尻大橋駅（東急田園都市線）より徒歩約7分。
渋谷駅（JR、東京メトロ、東急東横線・東急田園都市線、京王井の頭線）より徒歩約20分。
渋谷駅発路線バス多数あり。最寄りバス停は大坂上。

お問い合わせは、
文化事業部・地理文化講演会担当まで。
メール：ken2@jmc.or.jp
電話：03-3485-5417
FAX：03-3485-5593



日本地図センター便り

■ 第10回地理文化講演会開催

尖閣諸島での初めての総合調査を指揮して ～魚釣島、南・北小島はどんな島なのか

■概要

日本政府は1979年5・6月に、歴史上初めての大規模な「尖閣諸島利用開発可能性調査」を実施しました。この調査は、沖縄開発庁が、海上保安庁の巡視船多数及び国土地理院等の協力を得、関係省庁連絡会議に諮ったうえで調査計画を立案、仮ヘリポートを造り実施したものです。

講師は、その企画立案、現地調査の指揮、調査報告書の取りまとめを担当しました。尖閣諸島はその後、海上保安庁の警備体制の強化の下、半世紀近くの間、ほぼ平穏に領土管理がなされています。

2012年9月に国有化された同諸島の主要な3島について、現地調査時の写真などをもとに、どのような島なのかを紹介します。

■講師 藤田 宗久 氏

(元・沖縄開発庁総務局
企画課企画専門官)



■日時

2019年8月31日(土) 14時～15時30分

■会場

日本地図センター 1階セミナールーム
(東京都目黒区青葉台4-9-6)

■定員：80名・どなたでも参加可能です

定員に達し次第、締め切ります。

■参加費：無料

■お申込

事前申込制。Webサイトよりお申込みください。

<http://www.jmc.or.jp/event.html>

■交通案内

池尻大橋駅(東急田園都市線)より徒歩約7分。
渋谷駅(JR、東京メトロ、東急東横線・東急田園都市線、京王井の頭線)より徒歩約20分。
路線バス多数。最寄りバス停は大坂上。

■お問合せ

文化事業部・地理文化講演会担当まで。

メール：ken2@jmc.or.jp

電話：03-3485-5417 FAX：03-3485-5593

■「夏休み地図教室2019」開催

■対象： 小学校3～6年生(講座によって対象学年が異なります)

■開催日： 7月26日(金)・27日(土)・29日(月)、8月23日(金)・24日(土)・26日(月)

■テーマ：「3D富士山を作ってみよう!」「世界を食べる地図作り!」「手作り地球儀に挑戦しよう!」

■定員： 各回20組(先着順)※お子様と保護者(計4名以内)で1組。お子様のみでの参加はできません。

■受講料：1000円(1組あたり、教材費1セットを含む。追加購入可)

■会場： (一財)日本地図センター 1階セミナールーム(東京都目黒区青葉台4-9-6)

■お申込・詳細： http://www.jmc.or.jp/natsu_2019.html (7月12日・金 15時より受付開始)

■お問合せ：(一財)日本地図センター文化事業部 電話：03-3485-5417 メール：ken2@jmc.or.jp



国土地理院における令和元年度広報活動

令和元年度に実施した主な広報活動は以下のとおり。

1. 定常的な活動

(1) 報道発表

測量行政懇談会の開催や地理院地図機能改良などの国土地理院の活動について、国土交通記者会や筑波研究学園都市記者会などに報道発表を実施している。令和元年度は、平成30年度の64件より、多い75件（2月末時点）を実施した。

(2) 国土地理院広報の発行

毎月末に「国土地理院広報」を発行している。「国土地理院広報」は、国土地理院HPから閲覧できる。特に「ことばのミニ辞典」の連載など、分かりやすい広報を心がけている。

(3) SNS を用いた情報発信

国土地理院公式Twitter（2月末現在のフォロワー数：27,549）により国土地理院の情報を日々発信し、国土地理院のファンの発掘・拡大に努めている。

(4) 国土地理院本館1階展示コーナーの運営

国土地理院本館1階ロビーに展示コーナーを設けて情報の発信を実施している。

(5) 出前講座の実施

今年度の2末日時点で「35件」実施した。

2. 国土地理院ホームページによる情報発信

(1) 分かりやすいホームページ

災害対応時にトップページにバナーを作成し、新着・更新情報を分かりやすい表現にしている。また、ユーザーに分かりやすいホームページとするため、国土地理院ホームページのリニューアルを行う予定である。

(2) アクセシビリティ対応

平成28年4月施行の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に対応するため、アクセシビリティ及びユーザビリティに配慮したウェブサイトの作成を実施している。

3. 「地図と測量の科学館」の積極活用

「地図と測量の科学館」は、地図や測量の歴史や技術等を総合的に展示する施設であり、来館者に楽しく学んで再び来ていただけるような運営を行っている。

(1) 主なイベント

○常設展示のほか、特別展示室において、企画展を行っている。

（令和元年度）

- ①常設展示「JAXA と国土地理院の宇宙技術を用いた取り組みのコラボ展示」
- ②企画展「高さってなんだろう？」（3月12日から6月30日まで）
- ③企画展「地図と私たち」（7月17日から10月6日まで）
- ④企画展「大転換！平成の測量」（11月6日から12月20日まで）

- ⑤企画展「第23回全国児童生徒地図優秀作品展」(1月4日から2月16日まで)
 - ⑥企画展「地図から読む防災」(3月17日から6月28日まで)
 - 子どもから大人まで誰もが楽しみながら、「学び」「体感できる」企画を行っている。
 - ①夏休み野外測量体験「分度器を使って高さを測ろう！」(参加者33名)(7月24日)
 - ②夏休み野外測量体験「伊能忠敬になってお宝を探そう！」(参加者46名)(8月7日)
 - ③夏休み野外測量体験「GPSで地上絵を描こう」(参加者59名)(8月21日)
 - ④地図と測量のおもしろ塾「3Dの筑波山を作ってみよう！」(参加者184名)(9月28、29日)
 - ⑤地図と測量のおもしろ塾「日本の大きさを測ってみよう！」(参加者121名)(10月26、27日)
 - ⑥地図と測量のおもしろ塾「自分の地図を作ってみよう！」(参加者105名)(11月23、24日)
 - ⑦地図と測量のおもしろ塾「自分の地球儀を作ってみよう！」(参加者168名)(12月14、15日)
 - ⑧地図と測量のおもしろ塾「衛星測位からUAVまで」(参加者56名)(1月18、19日)
- (地図と測量のおもしろ塾の実施期間9月から1月まで計10回で延べ634人参加)

(2) 地理・地図教育支援での活用

- 「地図と測量の科学館」を活用して、小・中・高等学校の社会科教育における校外学習を積極的に受入れるなど教育現場における学習支援活動等を展開している。
 - ①中学生職場体験学習「つくば市立大穂中学校」(8年生4名)(7月24日)
 - ②小学生職場体験学習「つくば市立要小学校」(2年生5名)(10月29日)
 - ③中学生職場体験学習「つくば市立竹園東中学校」(7年生4名)(11月14日)
 - ④中学生職場体験学習「つくば市立吾妻中学校」(8年生4名)(12月12日)
 - ⑤サイエンスキャスティング2019(中高生対象の施設訪問)(7年生2名、9年生3名)(8月1日)
- 「地図と測量の科学館」を出前講座等の生涯学習へ活用している。
今年度の2月末日時点で「15件」実施した。

(3) その他(来館者100万人達成)

- 「地図と測量の科学館」は、平成8年6月1日の開館以来、令和元年8月6日で来館者100万人を達成した。(記念式典を実施)

4. 測量・地図の普及啓発について

(1) 全国児童生徒地図優秀作品展の実施

全国児童生徒地図作品展連絡協議会の事務局として、全国児童生徒地図優秀作品展を開催した。全国児童生徒地図優秀作品展では、特に優秀な作品に国土交通大臣賞、文部科学大臣賞を授与している。(添付資料1)

(2) 普及啓発に係る主な行事

- 「測量の日」関連行事

測量の意義及び重要性に対する国民の理解と関心を高めることを目的として、6月3日を「測量の日」とすることが制定されており、毎年6月3日を中心に各地と連携して「測量の日」関連行事を行っている。地図と測量の科学館で実施する「測量の日」特別企画は、本年度は、6月2日に実施した。

○国土地理院報告会

その時々課題に対する国土地理院の最新施策を紹介するとともに、測量や地図に関連する分野の第一人者の方々に特別講演をいただく国土地理院報告会を実施している。本年度は、6月6日に実施した。

以上

第23回全国児童生徒地図優秀作品展大臣賞表彰式



きりたに ゆう

あらい かのん

左から桐谷友さん、赤羽国土交通大臣、荒井奏音さん

国土地理院では、全国各地で開催されている児童生徒地図作品展の優秀作品を一堂に集めて企画展「第23回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催しました。

令和2年1月14日（火）には、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞の表彰式が執り行われ、国土交通大臣賞の神戸市立美賀多台小学校6年桐谷友さん、文部科学大臣賞の富山市立堀川小学校6年荒井奏音さんに、赤羽国土交通大臣から表彰状と記念品が授与されました。



国土交通大臣賞受賞作品

知っとう?神戸の土砂災害 わかりやすい立体ハザードマップ

兵庫県 神戸市立美賀多台小学校 6 年 きりたに ゆう 桐谷 友さん



作品主旨

僕の住んでいる神戸市は、山と海が近く、
今までも多くの土砂災害があったことを知
りました。

神戸市のハザードマップを見てみると思
った以上に多くの危険予想区域があり、とて
もおどろきました。

どのような場所で、どんな危険があるのか
調べたことを立体地図にして、それにハザ
ードマップで危険を予測されている場所に色
をぬったり、シールで印をつけたりして、た
くさんの人に知ってもらえるような立体ハ
ザードマップを作りました。

講評

平面のハザードマップに比べて、六甲山
中を屏風のように立てることによって危険な
所が直に伝わる意欲的なハザードマップで
ある。

洪水、土砂崩れ、地滑りなどの危険個所の
色分けの表現方法が上手い。

情報を空間に落とし込むという点で、その
結びつきが最もうまくできている。

立体にすることに意味のある作品となっ
ている。

縮尺と方位 がきちんと書いてあるのもよい。

文部科学大臣賞受賞作品

私たちの手で地球を救おう～すごいぞ!小水力発電～

富山県富山市立堀川小学校 6年 あらい かのん 荒井 奏音さん



作品主旨

私は、総合的な学習の時間で「立山研究」に取り組み、立山に生息する雷鳥が地球温暖化の影響で年々減っていることを知りました。そんな中で、富山県の地球温暖化防止に向けた取組について調べました。特徴的な取組の一つが小水力発電です。農業が盛んで高低差のある地形が小水力発電に適していることを立体地図で表現しました。作品づくりを通して、地球温暖化防止に向け、身近なことから自分にできることに取り組みたいと思いました。

講評

富山県の立体感のある地形がよく表現されており、水力発電の適地であることがよくわかる。他県と比べて富山県の河川がいかに急勾配であるかを縦断面図にするなど非常に工夫が見られる。高度段彩も分かりやすく色彩もきれいだ。大きな枠組みとして地球の環境のことを背景に置き、その中で自分の地元をとらえている。生きものにも目を向けている点も評価したい。



調整ワーキンググループの 活動状況報告と 来年度の活動予定

広報推進協議会 調整ワーキンググループ



次の2点のご承認を賜りたい。

- ① 来年度リーフレットの内容
- ② 来年度方針「若手の声を聞く」

広報推進協議会について

3



広報推進協議会は、測量や地図作成の役割や重要性等について、多くの皆様にご理解いただき、関心を持っていただくため**2015年に発足**した団体です。

測量業界においては、測量技術者を取り巻く社会情勢や環境は変化し続け、実際の測量作業に従事する者が減少するとともに高齢化が著しく進んでおり、測量技術者の不足が新たな課題として浮上し、**女性や若年者を中心とする新たな測量技術者の担い手を確保する**ことが求められています。このため中長期的な育成・確保の促進を図るため、測量にたずさわる産学官の関係者が一体となって、測量のイメージアップや測量関係業種での**就業の魅力をアピール**する等、様々な取組みを行っています。その一環として、測量関連業種における**広報活動等の情報を統合的に発信**します。
(出典：<http://sokuryo-koho.com/about/index.html>)

《口頭発言で申し上げようとしていた内容を緑字で記載しています》

既にご存じのところかと思いますが、当協議会の目的について再確認いたしました。女性や若年者を中心とする担い手を確保すること、具体的には就業の魅力をアピールすることが中心的な目的であり、その手段として統合的な広報を行うことが、この協議会の目的であると認識しています。

ワーキンググループ活動の内容（概要）

4



	今年度の実績	来年度の計画
1	リーフレットを更新	さらに洗練していく
2	業界の外との イメージのギャップ について検討	広報内容に反映していく
3	業界の魅力を協議会ウェブサイトで発信	継続
4	業界等の紹介ビデオ（企業ビデオ）へリンク	継続
5	業界のイベント等を ツイッター で周知	チャンネルを確立した ので活用していく
6	業界で活躍している技術者の事例を収集	現状維持
7	団体機関誌等で協議会ウェブサイトを紹介	強化（紹介の標準原稿を共有）
8	団体会員によるウェブサイトやリーフレットの利用を強化	継続
9	業界の魅力をイベントで発信	継続
10	近代測量150年記念事業へ協力	継続
11	-	ツイート内容を考える
12	-	若手の声を聞く

今年度は、これまでに確立した活動を実施した他、業界の内外のイメージのギャップを議論しました。また、若年者に向けたツイッターのチャンネルを整備しています。来年度は、若年者の声をより積極的に聞くことが重要と考えています。

→ 一定の職責を持つ女性技術者に見えるストックフォトに差し替え



私たちの暮らしに
欠かすことのできない測量と地図。
だから私は、この仕事で社会を支える。

2020年5月：新年度版を各団体に送付

測って、描いて、解決する。測量と地図。

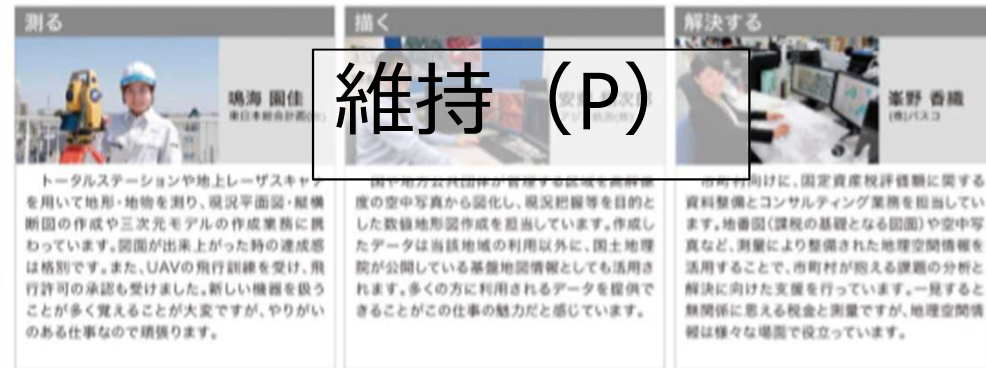
測量の役割や重要性等について、多くの皆様にご理解いただき、関心を持って頂くために2015年に発足の団体です。測量に携わる産学官の関係者が一体となって取り組みの推進を図っています。

(一社)全国測量設計業協会連合会 (公財)日本測量調査技術協会
(一財)測量専門教育センター (一財)日本地図センター
(一社)地図製図技術協会 国土交通省国土地理院
(公社)日本測量協会



文章をブラッシュアップ

測量技術者の仕事は、着目する場所の位置を正確に「測る」こと、測った位置を地図やカーナビなどに加工する「描く」こと、そして、位置情報を知る最新技術と地理空間情報を用いた自動運転支援、防災・減災支援、マーケティング支援に係わる問題を「解決する」ことまで、様々な分野に広がっています。それぞれの仕事に携わる先達方の一言を紹介します。



文章・図を



測量士になった後は、測量に従事して経験を積んでいきます。測量には国や公共機関が行う測量と民間企業が行う測量があります。

文章・図を

また、測量士ならではのセンスを生かして、計測分野のみならずコンサルティングやマーケティングなどの分野でも活躍しています。





6



リーフレットは、今年度も含め、例年ブラッシュアップをしております。来年度も、5月には新年度版を各団体に送付できるよう準備を進めております。このリーフレットは入職希望者向けという性格が強いことから、内容を更新するというよりは、内容をブラッシュアップするという方針となりました。

来年度は、結果的に、今年度更新していない部分について更新を図ることになりました。具体的には、おもて面上半分の写真と、うら面のテキストのうち、先輩からの生の声以外の部分を修正する方向で、ワーキンググループで議論を行いました。

写真の差し替えについて説明いたします。写真はパンフレットの顔となる部分と考えています。近代測量150年写真展の入賞作品も含めて検討してみましたが、やはり入職希望者にとってポジティブな印象を与えられる写真を探すことになりました。具体的には、女性技術者の、ある程度の職責を持つイメージが出ている写真を、プロが撮影したストックフォトから入手して差し替えたいと考えています。女性管理職が出る業界、というイメージを出していければと考えています。



【第一段落】

国土を適切に管理し保全することは、国家が存立する上で欠くことのできない要素の一つです。また、国土の姿を適切に捉えることができて初めて、様々なインフラの整備や、これに根ざした社会経済活動が可能になります。



スマートフォンで誰もが使える地図は、測量が捉えた国土の姿です。

国土の姿を適切に捉えることは、国民の安心と安全を確立するためにも、道路や堤防、鉄道、港湾といったインフラを整備・管理するためにも、ひいては経済社会の発展のためにも重要です。

測量・地図作成の仕事

8



【第二段落】

国土の姿を捉えるためには、測量をはじめとする「国土を測る」活動が必要です。「国土を測る」活動は、社会経済活動の基礎的な情報基盤を整備するために広く実施されており、国や地方公共団体が行う公共事業に限らず、民間による開発や個人の資産管理など、様々な場面で行われています。また、測量により作成される地図は、日常生活の中で当たり前のように利用されています。



国土の姿は、公共事業を行う国や地方公共団体だけでなく、開発を行う民間事業者や資産管理を行う個人が計画する「測量」によって捉えられています。また、国土の姿は「地図作成」によってスマートフォンの地図等になって、日常生活の中に伝わっていきます。

測量・地図作成の仕事

9



【第三段落】

このように測量や地図を作成する仕事は、国土やその上に構築されている様々な社会インフラの位置・形状などを測定し記録するという、我が国の社会経済活動のための基礎的な情報を整備する重要な役割を担っています。



これら「測量」や「地図作成」を担っているのが測量技術者です。測量技術者が国土や社会インフラの位置・形状を測定し記録することによって、我が国の経済社会活動が円滑に実施されているのです。未来を創る はじまりの仕事。それが測量・地図作成の仕事です。



測量・地図作成の仕事



5

【第一段落】

国土を適切に管理し保全することは、国家が存立する上で欠くことのできない要素の一つです。また、国土の姿を適切に捉えることができて初めて、様々なインフラの整備や、これに根ざした社会経済活動が可能になります。



スマートフォンで誰もが使える地図は、測量が捉えた国土の姿です。

国土の姿を適切に捉えることは、国民の安心と安全を確立するためにも、道路や堤防、鉄道、港湾といったインフラを整備・管理するためにも、ひいては経済社会の発展のためにも重要です。

測量・地図作成の仕事



6

【第二段落】

国土の姿を捉えるためには、測量をはじめとする「国土を測る」活動が必要です。「国土を測る」活動は、社会経済活動の基礎的な情報基盤を整備するために広く実施されており、国や地方公共団体が行う公共事業に限らず、民間による開発や個人の資産管理など、様々な場面で行われています。また、測量により作成される地図は、日常生活の中で当たり前のように利用されています。



国土の姿は、公共事業を行う国や地方公共団体だけでなく、開発を行う民間事業者や資産管理を行う個人が計画する「測量」によって捉えられています。また、国土の姿は「地図作成」によってスマートフォンの地図等になって、日常生活の中に伝わっていきます。

測量・地図作成の仕事



7

【第三段落】

このように測量や地図を作成する仕事は、国土やその上に構築されている様々な社会インフラの位置・形状などを測定し記録するという、我が国の社会経済活動のための基礎的な情報を整備する重要な役割を担っています。



これら「測量」や「地図作成」を担っているのが測量技術者です。測量技術者が国土や社会インフラの位置・形状を測定し記録することによって、我が国の経済社会活動が円滑に実施されているのです。未来を創る はじまりの仕事。それが測量・地図作成の仕事です。

リーフレットうら面上の、「測量・地図作成の仕事」のテキストのブラッシュアップを行いました。書かれている内容はそのままに、若年者の入職希望者にも読みやすくなるような修正を行いました。

具体的な工夫点のうち大きなものは、次の2点です。

若年者が地図に触れる機会はスマートフォンが多いのではないかと考えたため、スマートフォンへの言及を加えました。

また、リーフレットおもて面の下にある「未来を創る はじまりの仕事。」というキャッチフレーズが好評であることから、テキストの末尾にも改めて加えました。

広がる仕事の世界（リード文）

11



測量技術者の仕事は、着目する場所の位置を正確に「測る」こと、測った位置を地図やカーナビなどに加工する「描く」こと、そして、位置情報を知る最新技術と地理空間情報を用いた自動運転支援、防災・減災支援、マーケティング支援に係わる（ママ）問題を「解決する」ことまで、様々な分野に広がっています。

それぞれの仕事に携わる先輩方の一言を紹介します。



測量技術者の仕事の世界は、国土の姿を捉えるための「測る」こと、国土の姿を伝えるための「描く」こと、我が国の経済社会活動における、例えば自動運転、防災・減災、マーケティング等につわる問題を「解決する」こと等さまざまな領域に広がっています。

それぞれの領域に携わる先輩方の一言を紹介します。

それぞれの領域の説明のバランスをとる等の観点からブラッシュアップしました。

測量にかかわる国家資格

12



測量の国家資格（測量士・測量士補）は測量法で規定されています。

測量士・測量士補になるには右の図のような方法があります。そのなかでも測量専門学校や認定を受けた大学を卒業して、測量士補の資格を取得後、実務経験を経て測量士となるケースが大多数となっています。



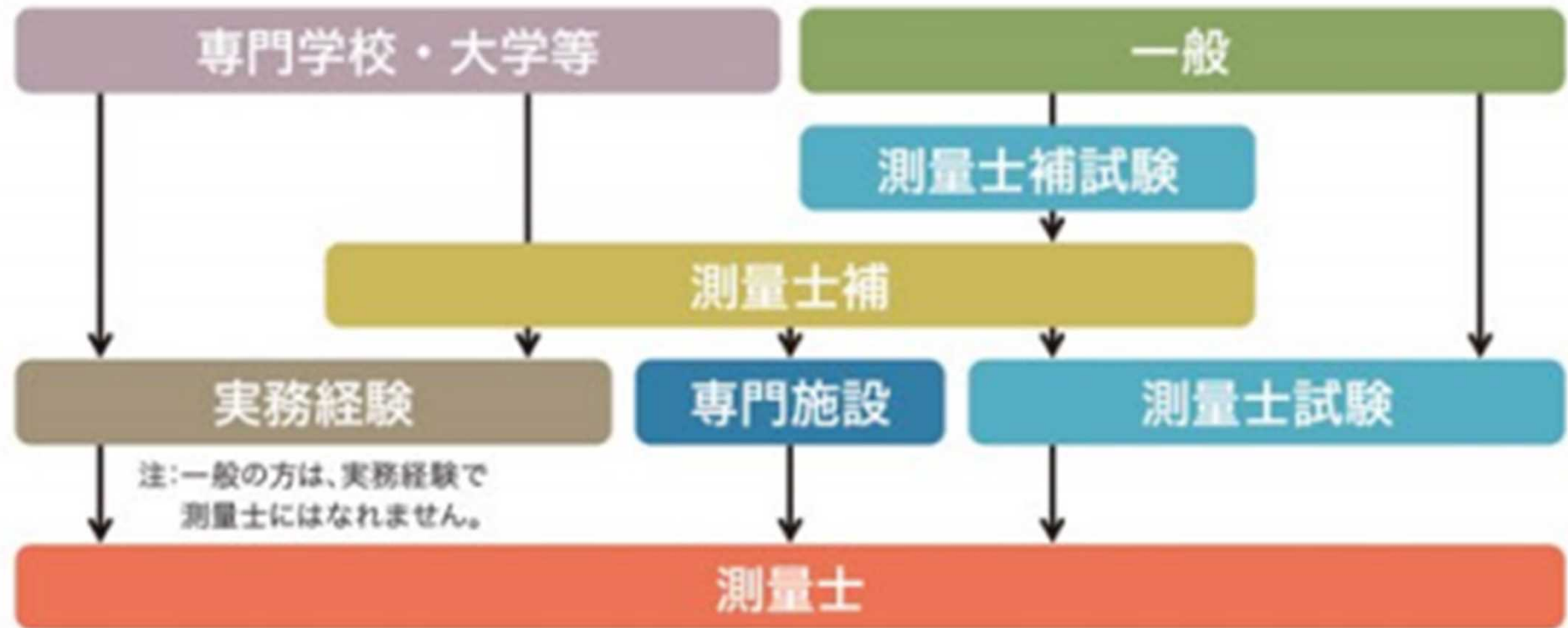
昭和24年（1949年）に公布された測量法に基づく測量技術者の国家資格として「測量士」と「測量士補」があります。多くの測量の計画や実施は、測量法により、これら国家資格者のみに許されています。

測量士・測量士補になる方法は右の図のとおりです。大多数の測量技術者は、測量専門学校や認定を受けた大学を卒業して測量士補資格を取得後、実務経験を積んで測量士資格を取得します。

測量士・士補資格の価値を伝える表現を加えるブラッシュアップをしました。

測量に関わる国家資格 付図

13



測量に関わる国家資格の図については、測量士制度に関わる既存の資料との整合性を確保する必要があることから、国土地理院としては、これまで通りとさせていただきたく考えております。

14



また、測量士ならではのセンスを生かして、計測分野のみならず、コンサルティングやマーケティング分野でも活躍します。

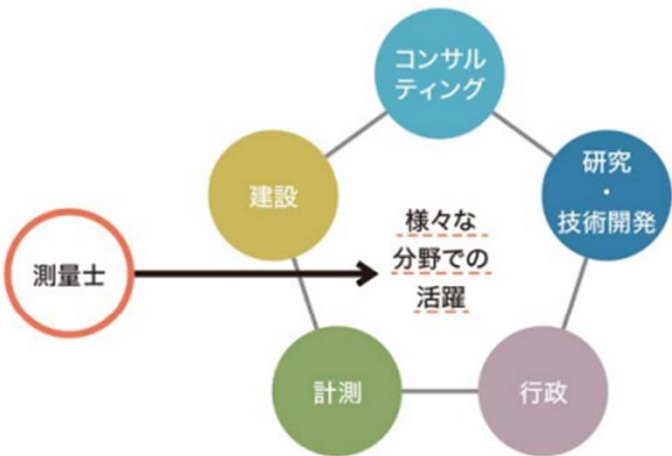


わに岐多ののため、のたす。人個や業企間民、関機共公や国、し、者従は事、測量技術に術に従は事、格と員で資者務グの営公ンす。る新ン者、技術やは開管を、技グに提指ル量をサ測ス進ン、道一て、サしうのなと行躍度員を活高教務たりの実つよ等のいて学量とし大測る得、てする活躍をなと活格と員で資者務グの営公ンす。

職開マか

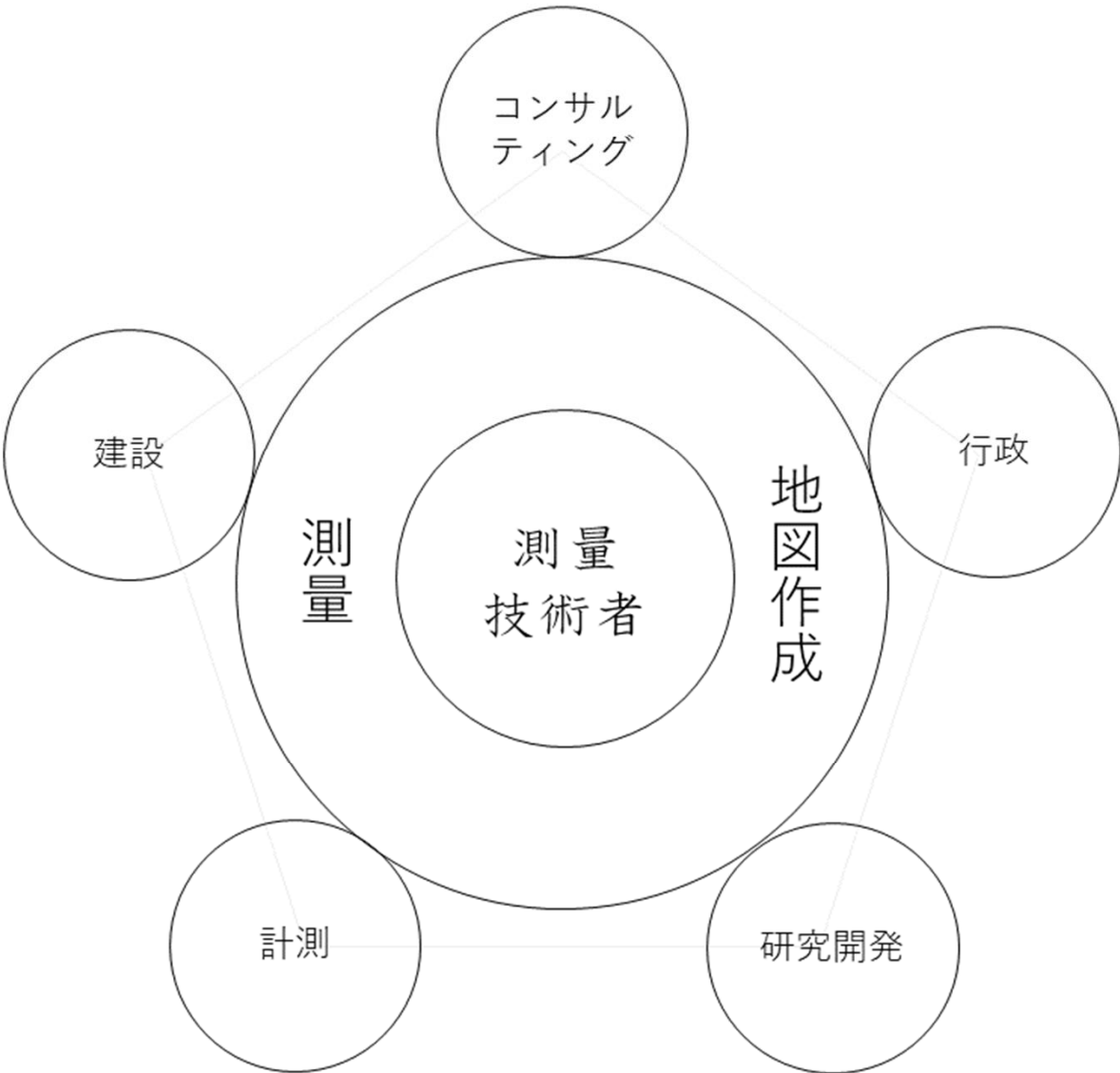
本来の測量での多彩な経験と、他分野での活躍との間のバランスを調整しました。

多分野で活躍する測量技術者 付図 15



多分野で活躍する測量技術者の図については、次の工夫を行いました。

- ① 「測量士」を「測量技術者」に改めた。
- ② 「測量士が様々な分野に流れていく」という印象ではなく、測量と地図作成というコア業務がまずあって、さらに様々な分野で活躍できる、という印象を与えられるよう、「測量技術者」を中心において、測量・地図作成に囲ませる形にした。



業界の外とのイメージのギャップ

16



- ① 情報技術等の「**新技術**」を使っているイメージが伝わっていない。
✓特にUAVのビジュアルなインパクトは特に地方で高いとのこと。
- ② ウェブ地図が無料であることから、測量に手間がかからないという誤解も見られる。
- ③ 新技術にフォーカスしすぎると説明内容が難解になる。また、実際の現場の仕事とも乖離する傾向が出る。
✓計測結果や利用例を合わせて見せると分かりやすい。例えば MMS
- ④ 「**現場の楽しさ**」を伝えることこそが重要である。

→ リーフレットや協議会ウェブサイトの更新に反映していく。

業界の外とのイメージのギャップについても、ワーキンググループで議論を行いました。新技術のイメージと、現場の楽しさのイメージとを、上手に伝えていくことで広報が改善できる可能性があると考えており、リーフレットやウェブサイト反映してまいります。

業界等の紹介ビデオヘリンク

17



- 各団体の会員が公開しているビデオを募集し、協議会ウェブサイトからリンクした。

- 新潟県測量業協会の「測量特番 ふるさとを守り、未来を創る ～測量士の仕事と役割～」に協議会ウェブサイトからリンクを張った

【今後の方針】

企業に期待することは排除しないが、現実的ではない。当面、支部など公的な主体のビデオについて集中検討する。

引き続き、特に支部ビデオへのリンク敷設を進めていきます。

広報推進協議会（測量・地図作成分野）
ようこそ！測量＆地図の世界へ
舞台は地球
事務局：国土交通省国土地理院 TEL:029-864-1113

MENU

測った姿を地図に表現します

イベントカレンダー
測量のパンフレット・動画
測量に必要な資格

NEWS & TOPICS

- ◎ 2020.01.14 国連GGIM防災会議2020が開催されます。
- ◎ 2019.12.20 測量特番 「ふるさとを守り、未来を創る～測量設計の使命・魅力・進化～」 一般社団法人新潟県測量設計業協会
- ◎ 2019.11.28 令和2年測量士・測量士補試験の日程が公表されました。
- ◎ 2019.05.21 測量のイメージアップのためのリーフレット（R1）を公開 印刷してご利用ください（※改定不可）

県の測量設計業の発展と向上を目指し設立されました。

検索

リンク集

お問い合わせ

会員企業 紹介

会員企業の情報を地域又は50音順で検索できます。

会員専用サイト

IDとパスワードが必要です

国土交通大臣表彰を受賞しました

若きプロフェッショナル

パンフレット等をご覧ください。

新測協だより

機関誌をご紹介します。

測量設計用語集

ニュースや新聞で目にする測量設計用語を集めました。

会員 随想

会員が執筆しました随想をご覧ください。

業界のイベント等をTwitterで周知

18



- Twitter アカウント @sokuryokoho を作成した
- イベント情報等の発信を行っている

ツイッターに毎日自動投稿できる状態は本年度確保できました。若年者にリーチするような内容の検討を進めていく必要があります。



広報推進協議会（測量・地図作成分野）

@sokuryokoho

広報推進協議会（測量・地図作成分野）からの情報発信を行います。リブライはいたしませんので、予めご了承ください。

sokuryo-koho.com

2019年11月に登録

ツイート
1

ツイート ツイートと返信



広報推進協議会（測量・地図作成分野） @sokuryokoho · 12月6日
広報推進協議会（測量・地図作成分野）です。



◎2月5日から、全平日の8:17にツイートを実施している

×現時点のフォロワーは少



メディアは確立した。
来年度、活用していく。
（フォロワー増施策以前に内容を要検討）

業界の魅力をイベントで発信

19



- 各団体（支部を含む）のイベント等の予定情報を協議会のサイトに掲載した。

→1ヶ月あたり3件程度の掲載ができた。

- 各団体は**学校向けの講演会や体験学習**を実施した。また、その情報を協議会ウェブサイトに掲載した。

- 各団体は**就職活動イベント**で業界をPRした。

- 大学**コンソーシアム**の多くにもリーフレットを提供できた。

これらの発信は順調に実施できており、引き続き実施してまいります。

NEWS & TOPICS

- ◎ 2020.01.14 国連GGIM防災会議2020が開催されます。
- ◎ 2020.01.08 地図と測量のおもしろ塾【衛星測位からUAVまで】が開催されます。
- ◎ 2019.12.20 測量特番 「ふるさとを守り、未来を創る～測量設計の使命・魅力・進化～」 一般社団法人新潟県測量設計業協会
- ◎ 2019.11.28 令和2年測量士・測量士補試験の日程が公表されました。
- ◎ 2019.11.15 技術シンポジウム「これからの地図づくりを考える～地図づくりはAIに凌駕されるのか～」が開催されます。
- ◎ 2019.10.24 近代測量150年最終章 企画展「大転換！平成の測量」が開催されます。
- ◎ 2019.10.10 基準点インフラツーリズム2019（江戸城周辺 秋の陣）が開催されます。
- ◎ 2019.09.30 地理空間情報フォーラム2019が開催されます。
- ◎ 2019.09.19 新旧の測量スポット探訪ウォーキングツアー等が開催されます。
- ◎ 2019.09.18 測量機器や地図等の展示と写真展が開催されます。
- ◎ 2019.08.26 令和元年度 社会・技術動向講演会（北海道・東北地区）が開催されます。
- ◎ 2019.08.09 地図展2019 京都 「近代京都150年を俯瞰する」が開催されます。
- ◎ 2019.07.25 令和元年度 社会・技術動向講演会（東海地区）が開催されます。
- ◎ 2019.07.24 第41回測量調査技術発表会が開催されます。
- ◎ 2019.07.22 第10回地理文化講演会「尖閣諸島での初めての総合調査を指揮して～魚釣島、南・北小島はどんな島なのか～」が開催されます。
- ◎ 2019.07.22 2019年度 教員免許状更新講習（マップリーダー研修）が開催されま

(参考) 国土地理院の若手の助言

20



- ① 月刊「測量」の「ふいめいる」や「日経コンストラクション」の「若手列伝」のような、**女性や若手の活躍を共有するコーナー**は有効
 - ウェブで記事が公開されていることは、ネットワークを構築する面でも有利
 - 「ふいめいる」の内容を、広報推進協議会ウェブサイトに掲載できる可能性は？
 - 日本測量協会の「測量・地理空間情報女性の技術力向上委員会（略称：ソクジョの会）」とのコラボレーション企画を考える価値があるのでは。
 - ② **業界の未来展望**を語ったり、それを画にすることができれば、学生の気を惹くことができる。例：[ゼンリンのCMシリーズ](#)
 - ③ キッザニアとモーターショーがコラボレーションして、クルマに関する職業を体験させた例がある。測量作業についても、読んだり聞いたりだけではなくて**実際に体験してもらう**ことが効果的では。
 - ・ **【JMC】地図地理検定イベント**を千葉イオンモールで実施した実績がある。
 - ④ 測量技術を身近に感じてもらうことが重要。測位の農業への応用など、測量技術が**生活に結びついている**という驚きが効果的。
 - ⑤ 測量を生活に役立てるため、**システム関係の他の技術**が関わっていることを伝えることも測量界への興味のきっかけになる。
 - ⑥ 「生活との意外な結びつき」と「現場の測量」の**ギャップ感**から測量界への興味を引き出すことができるのではないかな。
- 新鮮な観点が得られた。来年度、**各団体の若手からの助言も集約**して検討したい。



- ① 月刊「測量」の「ふいめいる」や「日経コンストラクション」の「若手列伝」のような、**女性や若手の活躍を共有するコーナー**は有効
 ▶ ウェブで記事が公開されていることは、ネットワークを構築する面でも有利
 ▶ 「ふいめいる」の内容を、広報推進協議会ウェブサイトに転載できる可能性は？
 ▶ 日本測量協会の「測量・地理空間情報女性の技術力向上委員会（略称：ソクジョの会）」とのコラボレーション企画を考える価値があるのでは。
 - ② **業界の未来展望**を語ったり、それを画にすることができれば、学生の気を惹くことができる。例：[ゼンリンのCMシリーズ](#)
 - ③ キッツニアとモーターショーがコラボレーションして、クルマに関する職業を体験させた例がある。測量作業についても、読んだり聞いたりだけではなくて**実際に体験してもらう**ことが効果的では。
 ・【JMC】地図地理検定イベントを千葉イオンモールで実施した実績がある。
 - ④ 測量技術を身近に感じてもらうことが重要。測位の農業への応用など、測量技術が**生活に結びついている**という驚きが効果的。
 - ⑤ 測量を生活に役立てるため、**システム関係の他の技術**が関わっていることを伝えることも測量界への興味のきっかけになる。
 - ⑥ 「生活との意外な結びつき」と「現場の測量」の**ギャップ感**から測量界への興味を引き出すことができるのではないか。
- 新鮮な観点が得られた。来年度、各団体の若手からの助言も集約して検討したい。



広報推進協議会のウェブサイトのスマートフォン対応をはじめ、若年者の視点に立っての発信については、課題意識をもって検討を進めました。

国土地理院の採用活動でも、若手グループを作って工夫をしておりましたので、国土地理院の若手グループからの提案を国土地理院から共有し、ワーキンググループで検討しました。

スライドに記載されている提案は、まさに若手の生の提案ですので、必ずしもこの協議会で実施可能な提案ではありませんが、若手の新鮮な観点からの提案は非常に示唆に富んだものであるということが分かりました。来年度、各団体のチャンネルも経由して若手とつながっていけるような工夫を行いたいと考えています。



- 継続するもの

- リーフレットの更新
- 予定情報やビデオ等を集約して協議会ウェブサイトに掲載
- ツイッターを用いた周知・広報
- 近代測量150年記念事業への協力

- 新たに実施するもの

- 若手の声を聞く ← **来年度初回のWGを早期開催し、具体策を検討**

ワーキンググループからの報告をまとめます。

まず、継続するものですが、リーフレットは引き続き更新してまいります。更新案を本協議会でご承認いただけましたならば、製作作業を進め、5月までに各団体に配布させていただきます。ウェブサイトについても、引き続き更新してまいります。また、本年度ツイッターを運営できる体制を構築しましたので、来年度も運営してまいります。なお、近代測量150周年記念事業のウェブサイトの運営を本協議会で実施していますが、これも引き続き実施して参ります。

また、新たに実施するものとして、若手の声を聞くための工夫をしてまいりたいと考えています。具体的な方策は、来年度以降、ワーキンググループで議論してまいりたいと思います。

【参考】本年度検討を行い、実施を見送った事項 23



- 地域別企業一覧をジオコーディングしたサイトを試作
 - 住所からのジオコーディングの精度がユーザ(→就活生)にとって受け入れ可能なレベルに至らず、地図の鮮度を確保することも困難であることが明らかになった。
 - 地図の公開は見送る。
- 地域別企業一覧（テキスト）への**支店**情報掲載を検討
 - 企業それぞれのアクセスマップとの重複感が大きい。
 - 特に支店・営業所等の変更は頻繁であり、協議会ウェブサイトの一覧の鮮度・精度を確保しようとするれば、費用対効果が見合わなくなる。
 - 支店情報の追加掲載は見送る。

本スライドは、ご参考まで、本年度ワーキンググループで実施した作業の中で、残念ながらウェブサイトへの反映に至らなかったものをご紹介します。

作業から得られた知見は、今後の活動にも生かしていきたいと考えております。